

TOKYO URBAN TECH

工学院大学 校 友 会 報



新校舎西側



新校舎南側

この模型写真は平成18年3月に竣工予定の工学院大学附属高等学校の概観を示したものです。既に旧校舎は撤去され、基礎工事が行われております。ここに至る経緯等について本文 8、9 頁に掲載されております。

vol.126

【目次】

校友会と学園の発展を願う：長嶋秀世	01
喜寿を迎える工学院：大橋秀雄	02
「選ばれる大学」になるために：三浦宏文	04
学園の近況から：中澤宣也	06
附属高等学校校舎の建替えの経緯と建設状況：淀川英司	08
琵琶湖への道：工学院の鳥人間たち：飯田明由	10
第11回理科教室に参加して：小倉昭夫	12
支部だより 学園支部・西東京支部	14
兵庫県支部・体育会連合OB会支部	15
北海道支部・東京支部・大阪支部	16
大学「総合力」ランキング 大学ホームページランキング	
第3回ホームカミングデー	17
2004年度の機械系学科の活動報告：田村久義	18
第3の化学系学科としての「マテリアル科学科」：橋本和彦	20
深紫外半導体レーザ研究裏話：川西英雄	22
建築系学科同窓会大交流懇親会	
「大仮装フェスティバル2004」開催される：鯨坂誠之	24
中学校 入学希望生徒が今年も増加	26
高等学校 共学一期生女子卒業生に聞きました：竹花有也	27
平成15年春の叙勲：刈田一二三	28
専門学校 平成16年度学園祭製図・作品展(淀夢祭)協賛OB展	29
校友会より 校友会事務局からのお知らせ	30
平成17年度支部総会開催予定	30
法人役員の推薦	31
校友会評議員および理事の変更	31
定款施行細則の追加	31
「第60回評議員会&第49回総会」	32
開催のお知らせ&学生・生徒の表彰	32
平成16年度貸借対照表&平成16年度財産目録	33
訃報	33
平成16年度事業報告&平成17年度事業計画(案)	34
平成16年度収支計算書&平成17年度収支予算書	35
賛助広告	36~38
「第15回全国大会(青森)開催」のお知らせ	39
校友の皆様への附属高等学校建替え資金ご寄付のお願い	40

校友会と学園の発展を願う

工学院大学校友会・会長 長嶋 秀世



校友の皆様には、お元気でご活躍のことと思います。光陰矢のごとしはよく言ったもので、時が経つのは早く会長をお引き受けしてからもう1年が過ぎてしまいました。昨年は、新潟県中越地震、次々と上陸した台風、海外ではスマトラ沖の大津波など自然による災害が多くありました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方々に心からお見舞いを申し上げます。

いま、日本の社会で大きな問題となっている少子化は、住宅や鉱工業製品の生産に影を落とし、大学などの教育機関の教育や経営にも大きな影響を与えています。これに関連して、在学生の支払う会費を収入源にしている校友会も大きな問題を抱えることになりました。学生数が減れば収入が減り、支出だけ増えることとなります。これからは、卒業生が固く結束し、校友会を支えていかねばなりません。それには、校友会が開催する定期総会、新年懇親会、全国大会に多くの校友に参加して頂かなければなりません。このような会を発展させていくためには、また来たくなるような楽しい集まりとなる企画が必要で、素晴らしい案を校友の皆様から提案して頂ければ幸いです。今年は、第15回の全国大会が青森県の弘前市で開催されます。多くの校友が参加し旧交を温めると共に互いの仕事や趣味に生かしてもらいたいと思います。

さて、校友会の活動は卒業生同士の交流と親睦および母校の発展を願うことが主眼であります。昨年発足した執行部はこのことをはっきりと認識しながらこの1年間活動を行って参りました。しかしながら、この十何年間、旧来の伝統を守り、単体同窓会を中心に活動してきた校友会の中では、改革に多くの抵抗があり、まだ思うような活動ができていたとは言えません。

いま、学園は大きな改革を実現しようとしています。大学は、現在ある工学部の他に、情報学部、グローバルエンジニアリング学部を増設し、総合大学

へと変革しようとしています。これが成功するためには、我々校友一人一人のバックアップが大切で、母校を積極的にアピールしていかなければなりません。

一方、校友会では昨年度、本会を充実させるために体育会連合OB会支部、教職員支部を結成しました。校友会は在学時の専門で分けられた単体同窓会で構成されています。これを縦系とすれば、体育会連合OB会支部には横系の役割を任せ、本部はもとより全国の支部が活性化されることを期待しています。また、教職員支部には内部のOBをまとめ、学園の発展に寄与すると共に、卒業していく学生に対し校友会に関わりを持っていただけるような働きかけを望んでおります。そのほか、父母と教員で構成されている後援会との連携を強化し、その子弟が卒業後、校友会の活動に参加してもらうよう働きかけていきます。

皆さんがいまご覧になっているこの会報も変わったことにお気づきでしょうか。今回から、経費節減と産業界で活躍している校友の紹介を主眼に広告を掲載することになりました。この心は活躍している仲間を知り、そこから活力をもらい、できれば互いの仕事にプラスにしていこうということです。

最後に、今年度から校友会の政策やあり方に対して意見を言うべく委員会を作る予定です。ご存知のように、本学園の卒業生の中には上場企業の社長を経験している方や社会で広く認められている方が大勢おられます。この方達は、特に忙しい方なので委員会は特別な会合を持たずに、機会あるごとに「校友会の活動全般にわたって大所高所から意見を述べて頂くことにしています。述べられた意見については、執行部は必ず検討します。

末筆となりましたが、理想的な校友会を実現するために私もできる限り努力するつもりでございますが、校友各位の暖かいご支援とご協力をお願いいたしますと共に皆様のますますのご活躍をお祈りします。

喜寿を迎える工学院

工学院大学

理事長 大橋 秀雄



新宿校舎28階の会議室に、2代目理事長古市公威先生が「利用為大作」と揮毫された額が架かっています。その来歴については、学園広報誌「窓」の昨年1月号にご紹介しましたので、ご覧になった方も多いと思います。これは易経第42卦からの引用で「もって大作を為すによし」と読みます。大正12年の関東大震災で築地校舎が焼失してから苦節5年、新宿に新たな校地を求めて鉄筋3階建てのモダンな校舎を再建したのが昭和3年6月です。それを契機として、校名を工手学校から工学院に変えました。揮毫の日付は同年同月となっていますから、「再建は成った、いまこそ大きな夢にチャレンジする好機だ!」というメッセージを残されたわけです。



今年平成17年は、そのときから数えて、数え年で77歳、すなわち喜寿に達します。一つの節目の年でしょう。ちなみに、明治20年創立の工手学校が工学院に変わったのは、数えて42歳のときです。あと7年すると、工学院時代が工手学校時代の2倍に達しますから、この名前が一層輝くよう、改めて「利用為大作」の期待に応える責任を痛感致します。

工手学校が設立された明治20年は、はるか昔でピンとこないと感じる方も多いでしょう。でも、今年は学園設立118年目ですから、現在59歳以上の方は、明治20年と現在の間点より前に生まれたことになります。私を含め現在69歳以上の方は、明治維新と現在との中間点より前に生まれたことになります。そう考えると、明治維新や工手学校設立の時代が、ぐっと身近に感じられます。

簡単に喜寿といいますが、その間の時代の変化はすさまじいものがありました。昭和3年以降、世界経済恐慌、満州事変、シナ事変、太平洋戦争、空襲、廃墟、敗戦、占領、復興、経済成長、そしていつの間にか世界第二の経済大国。古市公威先生に、高層ビルが立ち並び西新宿の姿と新宿校舎をお見せしたら、どんなに驚かれることでしょうか。

本年1月9日に行われた校友会の新年懇親会の折りに、同じタイトルで記念講演をさせていただきました。そのときは、明治維新から現在に至る近代史を、工手学校設



昭和3年 新校舎落成



昭和20年 廃墟の新宿東口

立まで、工学院に改名まで、現在までに分けて、多くの写真を交えてお話ししました。ここでは紙面の制限から、喜寿を迎えた工学院時代を4枚の絵に圧縮して代表させました。昭和3年 新校舎落成 昭和20年 伊勢丹だけが焼け残った新宿駅東口 昭和37年 淀橋浄水場から(林保次郎氏の版画) 平成7年 新宿再開発完成。この間の変化のすさまじさを実感していただければ本懐です。

「革新を通じて伝統を守る」という言葉を私は好んで使います。「伝統にしがみついても伝統を守る」ことはできません。ダーウインの言葉を借りるまでもなく、生き残るものは、強いものではなくて、環境に素早く対応できるものなのです。現在のような激動の時代に、学園が社会から期待され、尊敬される役割を果たし続けるためには、我々自身も果敢に時代のニーズに対応し、自らを進化させ続ける必要があります。学園で働く一人一人が、勇気を持って変化にチャレンジする。それも学園の目標に沿って、力を合わせてチャレンジする。理事長の役割は、そのような状況を生み出すことだと信じています。



昭和37年 淀橋浄水場から（版画）



平成7年 新宿再開発完成

学園の本体である工学院大学では、18歳人口減少の波をまともに受けて、受験生数が減少する傾向が続いてきました。学部・学科の新設に対する規制緩和が大幅に進んできたことを生かして、平成18年4月から新学部の設置を始めとする大規模な改革を実現するよう、文部科学省への説明を始めとして準備を着々進めています。現在のところ、電気系3学科（電気、電子、情報工学）を再編して、電気システム工学科と情報通信工学科の2学科を既存の工学部に残し、情報工学科をコアとして情報学部を新設して、そこにコンピューター科学科と情報デザイン学科を置く予定です。さらに、国際基礎工学科の教育上の特色を発展させるため、グローバルエンジニアリング学部を新設して、当面は機械創造工学科の1学科でスタートさせます。工学部に加えて2学部を新設するこの改組によって、第一部（昼間）の学生定員は170名増加します。これは定員割れを生じている第二部（夜間）の定員を移管して充当しますので、大学全体としては定員が変わらない改組、すなわち届け出の改組で済むことにな

ります。

これからは、立ち止まることなく進化する姿を、受験生を始めとする社会に発信し続ける必要があります。1回の改組で当分おしまいというわけにはいきません。平成18年度に続いて、平成19年度には、建築系学科を再編して建築学部を新設し、建築に強い工学院大学のイメージをさらに強気に押し出してゆく予定で準備を始めています。魅力的な学部・学科構成に加え、「工学院大学に行けば力が伸びる」という教育の味がこれからますます重要になります。基礎学力の補強を始めとするきめ細かな学習指導を行うために、学習支援センターの充実も進めてゆきます。

18歳人口減少と大学進学率増加の二重の打撃を受ける専門学校は、とくに工業系で学生数の激しい減少が続いてきました。工学院大学専門学校でも、昭和40年代には2000人いた夜間部の学生が現在では100人程度に、平成3年頃までは1800人いた昼間部の学生が現在では500人程度に激減し、様々な改善と努力にかかわらず、学生数が回復する見込みは立っていません。理事会として、この状況を先送りすることは経営的観点から許されないと判断し、平成18年度以降の募集停止を決定しました。これからは、工手学校創立の動機であった社会人教育を大学で吸収することを始めとして、実践的技術者育成の伝統を大学が全面的に引き継いで発展させてゆきます。物事には必ず始まりと終わりがあります。終わりには悲しみと苦痛を伴います。学園生き残りのための選択と集中の結果とはいえ、これまで専門学校を盛り立ててくださった方々のご尽力に応えることができないのは、無念の至りであります。新たな後輩を失うことになっても、専門学校同窓会の皆様が母校に誇りと愛着を持ち続けることができるように、学園全体として協力させていただきます。

中学、高校は、男女共学の導入を契機として次第に存在感が高まり、順調に発展しております。18年4月から高校新校舎完成を更なる引き金として、本学園の入り口をしっかりと固めることを願っております。

学園にとってお目出度い喜寿の節目ですが、立ち止まることは許されません。歴史や伝統は、乗り越えてゆくことによって厚みと価値が増してきます。校友の皆様とご一緒に末永く学園を誇れるよう、ご支援とご鞭撻をお願い致します。

「選ばれる大学」になるために

工学院大学
学 長 三 浦 宏 文



はじめに

本学の将来を見据えて発足した「工学院大学21世紀プラン作成委員会」で討議された成果を具体化し、推進するために「学園改革推進本部」が昨年立ち上げられ、大学改革も本格化してまいりました。

教職員は全員一丸となって改革に取り組んでおります。校友会の皆様のお力をお借りしなければならないこともいろいろ出てくると思われまますので、どうかよろしく願いいたします。

改革には、学部構成など、構造的な改変もあり、それにつきましては、すべてが明確になりました時点でご報告申し上げますが、大切なのは大学の教育機能の充実が基本でありますので、本稿では、その点についての報告と貴会広報部からの依頼でもありますJABEE（日本技術者教育認定機構）に付き、その狙いなどについて多少詳しく記述させて頂きたいと思えます。

1. 教育機能の充実について

2007年には、数字の上では大学全入の時代になると言われており、法人化された国立大学を含めて、すべての大学が競争の時代に入りました。大学が学生を選ぶのではなく、学生が大学を選ぶ時代になったと言われる所以です。教育機関としての質が真剣に問われる大学評価の時代になった訳です。

本年度の本学の自己評価運営委員会は、「学生サービスの現状と課題 学生の満足度を高めるために」と題する報告書を出し、大学があらゆる面で学生たちに評価されていることを正しく受け止めることの重要性を示唆してくれました。

大学は、受験生からも、父兄からも、在学生からも、卒業生からも、社会からも評価され、選ばなければならないのです。そのために本学はいろいろ

な施策を行っています。

まず、独自の教育プログラムの実行には力を入れています。

本学は、2003、2004年度と「特色ある大学教育プログラム（特色GP）」に2年連続で選ばれ、世間の注目を浴びました。1つは、ECP (Engineering Clinic Program) で象徴される産学連携型の教育に関するものであり、もう1つは、本学の誇る理科教室における学生の活動に関するものでした。いずれも、学生が主体となる教育プロセスの有効性を強調したもので、私が以前から主張している「受身ではない教育」「自ら動いて学ぶ教育」の延長線上にあるものと考えています。この工学教育の本質をカリキュラムに実現するためには、ECPとともにPBL (Project Based Learning) という表現を使って、各学科で工夫が続けられています。

平成18年度からは、高校の新指導要領に基づいて教育された学生たちが入学してくることは、ご存知の方も多いと思いますが、大学にとっては、大きな課題を背負うことは確かです。従来よりも学習内容の少ない新入生を迎えるわけで、大学を卒業するまでの4年間に、今までどおりのレベルに達するようにいかにして教育すべきか各大学は頭を悩ませているわけです。

本学では、基礎教育センター（仮称）を設置充実させ、学生の基礎学力養成を支援すると共に学習相談や補習授業の機能も十分に果たすようにする計画を早々に実行に移しつつあります。新指導要領で育った高校生の中には、大学の教育について行けるかどうかを不安がっているものも居ると言われています。本学は、このような学生に十分サポートできる体制を整えて、意欲さえあれば、それに報いるための準備が出来ている教育機関であることを目指し、そして示したいと考えております。

また、本学は体育活動や文化活動が盛んであることはよく知られていますが、最近では、ロボットコンテストや鳥人間コンテストなどの学生自主活動というものも盛んになってきました。これに関しましては、毎年のように、校友会にはご援助を頂き感謝しておりますが、学生を活気づけるためにも、また、本学の名を広く知ってもらうためにも、環境を整えて、この種の活動は推奨し続けたいと考えています。引き続きのご支援を賜ればうれしく思います。

学生の就職活動を援助する活動も、本学は積極的に進めはじめました。昨年は、就職アドバイザー制度を確立、知識豊富なOBの方をお願いして、学生の就職活動に有効な、実践的なアドバイスを与えることが出来ました。本年度も引き続き活動を続けていただきます。また、学生には、低学年の頃から、キャリア教育が受けられるような計画を立て、社会人として生きてゆくための心構えを早い時点で身に付け始めることが、自分の人生設計において非常に大切であることを自覚させたいと考えています。

2. JABEE (日本技術者教育認定機構) への取り組みとその求めるところ

JABEE というのは、本学関係者の中には、よくご存知の方も多いかと思いますが、Japan Accreditation Board for Engineering Education の略です。JABEE 認定制度とは、大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度です。

本学の国際基礎工学科の「国際教育プログラム」が、わが国で最初(2001年度)に認定された3大学のうちの1つであり(他は、名古屋大学と東京農工大学)大きな誇りとしています。また、昨年度は、

機械工学科と機械システム工学科の2つの教育プログラムを申請し、審査を受けました。本年4月には、正式認定が得られるであろうと、楽しみにしています。引き続き、環境化学工学科をはじめ、いくつかの学科が申請の準備を進めておりまして、本学の教育システムが、ますます充実されてゆくものと思っております。

JABEE の認定を受けた教育プログラムを修了した学生は、卒業時に授与される認定証によって、質の高い技術基礎教育を受けたことが客観的に証明され、しかも、単に工学知識のみではなく、コミュニケーション力、自己学習力など、最近とみに要求され始めている人間力も併せ持つことも示されることになるのです。

また、技術者の国家資格「技術士(Professional Engineer)」を定める技術士法には、技術士第一次試験合格者と同等と定められ、直接「技術士補」となれるという大きな特典もあるのです。

最後に、昨年度、直接審査を受けた一人としての感想を少し述べておきます。

審査に際しては、過去の期末試験の答案用紙、レポートおよび卒業論文などをそろえて提示し、JABEE の要求に応じた学習・教育目標を設定し、また、そのためのシラバスを明示するなどのかなり厄介な仕事もあって、纏め役の教員は大変です。

しかし、教員や学生にとっても、これまで教育の現場になかった緊張感が生まれ、より優れた教育へと踏み出せたものと確信しております。

おわりに

大学教育が揺れ動きつつある今日、本学が、これまで通り、確固たる地位を保つように努力しなければならないと覚悟しておりますので、どうかよろしくご援助をお願いいたします。 以上

学園の近況から

工学院大学

常務理事 中澤 宣也



はじめに

校友会の皆様には日頃から暖かいご支援を戴いておりますこと、深謝申し上げます。お蔭様で学園も118年目に入り順調に発展しております。最近における学園の歩みの中から2、3ご報告申し上げます。

昨年秋、週刊東洋経済において、「本当に強い大学」として総合全国11位、また、特に人材創出力部門では第3位にランクされるという喜ばしい記事が掲載されました。お気づきになった方も多かったと思います。「技術者教育」について、我が国におけるトップランナーでありたいとの思いが、徐々に社会に受け入れられつつある証拠であると、教職員一同力強く感じるとともに、なお一層奮励努力する所存です。

さて、今回は、特に校友の皆様と関係の深い案件についてご報告させていただくことに致します。

1. CPDセンター（Continuing Professional Development: 技術者能力開発センター）の活動

科学技術の進歩の速さが著しい今日、技術者は常に自身の技術力の向上に努める必要があります。本学園でも、卒業生をはじめとして多くの社会人技術者に、種々の教育事業を企画し、いくつかの試みを始めております。以下にその概要をご紹介します。

（1）「セキュアシステム設計技術者の養成」

文部科学省科学技術振興調整費の支援により、平成15年度から5年間の予定で、セキュリティ技術者の教育を実施しています。平成16年度は、34名の社会人技術者と、9名の大学院修士課程の学生を対象に、情報社会で最重要な「セキュリティ」に関する種々の側面について教育を実施しました。

このプログラムには、他大学の研究者、企業の技術者も講師陣として参画しており、最先端の教育プログラムを策定し、学部、大学院のカリキュラムに反映させる予定です。初年度は「高エネルギー加速器のセキュアな遠隔制御システム」という課題学習（PBL）にも取り組み、大いに成果をあげました。

本講座は、毎年40名の受講者に対して実施し、平成19年度までに合計160名の技術者を輩出する予定です。（受講生の負担はなし）

（2）知財講座の開設

青色発光ダイオードの話を持ち出すまでもなく技術で立国しなければならない我が国においては、技術者も「知財」の知識が不可欠です。そこで平成16年度には、特に「アジア諸国における知財」の問題を取り上げました。5月と11月の2度にわたって、

国際シンポジウムを開催し、中国、台湾、韓国、香港、シンガポール、アメリカの専門家と日本弁理士会会長や特許庁の担当官に参加いただいて、有意義な議論を展開しました。また、この春には、初めての有料講座を6回開催し、大手企業の知財部長を中心に講師陣をそろえて、アジアを視点に知財の現場でのお話を伺っております。各回ともに60名ほどの参加者があり、この分野の関心の高さが伺われます。校友各位のご参加も期待します。

（3）理科教育振興部門の開設

青少年の理科離れが喧伝されています。本学でも、1994年から理科教室、理科論文を継続的に開催し高い評価を得、前者は文部科学省の「特色ある教育GP」に採択されました。附属中学高校を持つ技術系大学として、次世代の養成には力を入れたいと思います。その観点から、本年度はノーベル物理学賞の小柴昌俊先生が設立された平成基礎科学財団と協賛して、高校生向けの「楽しむ科学教室」を新宿キャンパスで6回開催し、本学付属校も含めて意欲的な生徒諸君に刺激を与えております。

また、物理、化学、生物関係の客員教授もスタッフにお願いし、高校の理科の先生方との交流も始めま

した。

更には、季刊誌「イルム（アラビア語で科学）」も発行し、全国各地の高校とも連携を深めようとしています。また、校友の方々やお知り合いの方々に季刊誌の定期送付をご希望の方はご連絡ください。

（４）日本技術士会との交流の強化

社会の安全の責任を担っている技術者も、身体の病気を治す医者と同様に、社会的に認知された資格が必要な時代が直ぐそこまで来ています。「技術士」がそれです。未だに、5万人程度ですが、その10倍は必要となるでしょう。

本学の国際基礎工学科は日本初のJABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けましたが、機械工学科、機械システム工学科も昨年末に受審した結果、4月には正式認定の予定です。このJABEE認定課程

を卒業することで技術士一次試験が免除となり、技術士への道が短絡されます。そのような趣旨を踏まえ、本学では日本技術士会との連携を深めるべく、共同で講演会等を開催し、大橋理事長、畑村教授も技術士会会長と共に講演されました。

本年5月末にも2回目の講演会を予定しており、今後とも連携を深めながら、技術者の継続的な研鑽の場を提供し、また卒業生の中から技術士を目指す方々が、多数出てくるよう支援したいと考えています。

卒業生の技術士の会を作る大学も増えて参りました。本学でも、多くの卒業生が技術士となられ、交流会をつくれ、後輩諸君の指導にあたられることを期待しています。

2. AI (Academia-Industry Forum) フォーラムの活動について

2003年に設立した産学連携のための「AIフォーラム」は、お蔭様で順調に展開しております。産側と学側からカレントトピックスのお話を伺う月例会や校友社長の創業の苦労話、あるいは最先端の情報ソフト企業で活躍する校友の講演会と在学学生を巻き込んで熱気に溢れた会が開催されています。より多くの校友の方々が参加されますよう、また学生の就職支援や産学共同のプロジェクト等についてもいろいろなお提案がいただければ幸いです。

3. リエゾンオフィス（産学連携推進室）の活動報告

2000年4月から標記の部署を設置し、専任の担当者をおいて産業界と大学のパイプを太くする活動を始めました。その結果、八王子キャンパスにおける産学共同研究センター（CORC）での研究開発を始めとして、種々の活発な連携が実現しています。また、起業された先生も数名出てきました。4年半のリエゾン活動の報告書もまとめました。校友の皆様も是非ともリエゾンオフィスを活用頂き、大学教員との連携プレイにより企業の発展をお考えいただければありがたく存じます。

おわりに

ご存知のように、合計特殊出生率は既に1.29まで下がり、若年人口減少の圧力は増加する一方で、学園経営にはさまざまな形の変革が要求されています。18歳人口のみを対象にする学校経営は、直ぐ困難に直面します。ここに掲げた種々の試みは、来るべき時代に備えて、社会人や若年層を取り込んでいくための試行的な施策ともいえます。このような厳しい学校経営の環境下にあっては、母校を情熱的に支援して頂く校友の皆様のご存在が、一番の力です。今後も是非とも熱いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上

附属高等学校校舎の 建替えの経緯と建設状況



施設担当常務理事 淀川 英司

附属高等学校校舎本館は、昭和42年に西新宿から八王子市中野町に校舎を移転した際に建設しております。以来、40年近くが経過し老朽化が進み、平成13年に高等学校校舎に隣接して建設した中学校校舎との格差が目立つようになり、何らかのインパクトのある施策が必要であるとの認識を強く持っておりました。また、平成14年度から実施した男女共学制による入学志願者数の上昇・安定化を確固たるものとしてと考えておりました。一方で、法規制の強化により校舎の耐震補強が求められている状況にもありました。

こうした状況の折に、平成15年、八王子校地から徒歩で5分足らずの距離にある戸板女子短期大学の校地（仮称：犬目キャンパス）を取得することが理事会で決定され、同時に同校舎を仮校舎として高等学校校舎を建替えることが決定されました。その後ただちに、仮校舎改修工事計画および高等学校新校舎建築計画の策定作業を行い、設計・施工へと進めております。

1. 附属高等学校新校舎の基本設計と建設状況

基本設計に際し、まず、基本設計責任者として、建築都市デザイン学科の望月大介教授を選定しました。また、基本設計案の作成にあたっては、高等学校教職員の要望をアンケートで収集・検討し、また、城戸一夫高等学校校長の要望にも充分配慮しました。更に、プールの屋上配置案も検討しましたが、キャンパス内を通過している高圧電線との距離の関係で法的に不可能ということが判明し、結局、プールは、中学校校舎と高等学校校舎の中間部最北側の地上に配置することになりました。基本設計は、八王子校地将来計画委員会、同建築専門部会、常務理事会、理事会で議論・審議して決定されました。

基本設計における主なデザインコンセプトは次の通りです。

キャンパスの主役は生徒達である。

生徒間および教職員のコミュニケーションの活性化を促すキャンパスとする。

アトリウム空間を通して学内全般の視覚的繋がりを図る。

ホームルームを中心に諸室への展開を促す。

高等学校校舎と中学校校舎との視覚的一体化を図る。

図書館は高等学校校舎と中学校校舎との中間に配置する。



高等学校新校舎南側外観



高等学校新校舎西側外観

主な特徴としては、アトリウム空間、校舎1階南側テラス、屋上の天体観測ドーム、環境への配慮などが上げられます。

実施設計は、株式会社日建設計に担当していただくことにしました。その際、日建設計理事、技師長の関五郎氏(昭和41年本学建築学科卒業)のご協力・ご高配をいただきました。そして、設計実務は、朝田志郎氏(平成5年本学建築学科卒業)、浦俊弥氏(平成11年本学建築学科都市建築デザインコース卒業)の2人の校友を中心に進められ、平成16年9月末に完了しました。

施工業者は入札の結果、戸田建設株式会社に決まりました。また、旧校舎地上部の解体は株式会社2. 犬目校舎の施設と利用状況

戸板女子短期大学八王子校舎の校地面積は、全体で約8,300坪あり、主な施設としては、第一校舎、第二校舎、第三校舎、体育館、図書館、学生寮および守衛室があります。これらのうち、西側に配置されている図書館と学生寮を含む約2,000坪は、引き続き戸板学園が所有しております。したがって、本学園が取得した校地面積は約6,300坪ということになります。第一校舎と第二校舎は鉄筋コンクリート造3階建、第三校舎は鉄骨造2階建で、床面積は、それぞれ2,487m²、3,252m²、1,091m²となっております。第一校舎の東南側には広い芝生、校地に隣接した南西側には八王子市の清水公園があり、緑豊かな非常に良い環境となっております。学生寮は戸板学園によって解体され、現在その跡地には梅の苗木が植えられております。

3. 附属高等学校新校舎建物概要

- (1) 敷地面積：約24,200m²
- (2) 建築面積：約2,800m²
- (3) 延床面積：約9,400m²
- (4) 構造・規模：鉄筋コンクリート造4階建
(天体観測ドーム5階)

高山工業が担当しております。

現在、旧校舎の地上および地下部分の解体が終了し、杭打ち工事が始まっております。新校舎の竣工は平成18年3月を予定しております。



工事現場(平成17年2月2日)

高等学校犬目仮校舎の改修工事の設計・施工は、鹿島建設株式会社が行い、平成16年8月上旬に完了、9月から使用しております。また、第一校舎の1階と2階の一部に大学のECP(Engineering Clinic Program)センターを開設いたしました。

さらに、体育館は大学の工房として、鳥人間コンテスト等への参加のための作業活動の場に使用しております。高等学校新校舎完成後の犬目校舎の利用計画については、現在、大学で検討を進めております。



犬目キャンパス第一校舎と体育館(南側から見る)

- (5) 外装屋根：アスファルト防水、ウッドデッキ、屋上緑化
- (6) 外壁：モザイクタイル貼り
+ コンクリート化粧打放

以上

琵琶湖への道：工学院の鳥人間たち

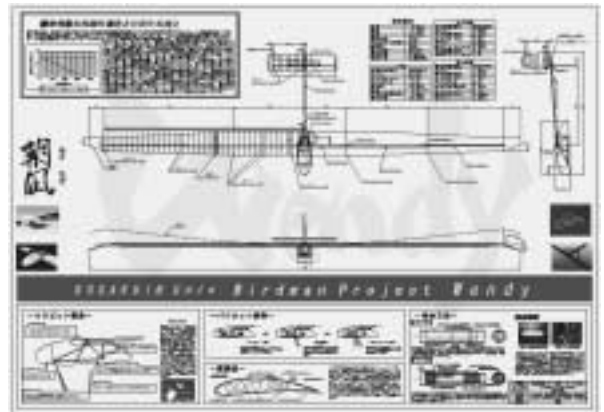


機械工学科 飯田 明由

すでに皆様、ご存知かとは思いますが、昨年7月末に開かれた第28回鳥人間コンテストに工学院大学鳥人間サークルWendyが会場いたしました。昨年は多くの台風が日本に上陸しましたが、鳥人間コンテストが行われた週末も例外ではなく、大会そのものが成立するか危うい状況でした（人力プロペラ部門は競技未成立）。滑空機部門は競技が行われましたが強風による機体破損、棄権が相次ぐ中、17.33mという記録を工学院大学に持ち帰りました。

鳥人間コンテストは7月から8月にかけて琵琶湖で行われる手作り飛行機による競技会です。人力動力部門と滑空機部門に分かれて競技を行います。滑空機部門は機体の大きさによりオープン・クラスとフォーミュラ・クラスの2つに分かれています。工学院大学Wendyが参加したのは滑空機オープン・クラスです。このクラスの機体は翼幅が20mを超えるものがほとんどです。Wendyが作った朝風も翼幅は20mを超えます。鳥人間コンテストでは高さ10mのプラットフォームから琵琶湖に向けて飛行するため、滑空速度はおおよそ6m/sから8m/s程度です。この風速と機体（翼）の大きさからパイロットを含めた機体重量を100kg以下にする必要があります。このため機体重量は35kg程度を目標に製作するチームがほとんどです。軽くて丈夫な機体を製作するため、学生たちは自分たちの手でカーボンファイバを焼き、フレームの作成を行っています。荷重試験や飛行解析を行いながら機体の設計・製作を進めています。

鳥人間コンテストは書類審査で出場が決まります。プレゼンテーション用の図面が非常に重要です。



如何に自分たちのコンセプトやアイデアを相手に伝えるかが重要です。上の図は2004年度に大会に送った図面のコピーです。図が小さいため詳細については説明できないのですが、機体設計のコンセプト、それを裏付ける実験データ、美しい三次元CADなど学生たちが講義で学んだことを活かして立派な資料を作成したことがわかります。

鳥人間サークルが結成された2001年当時はまだ創造活動支援などの制度はありませんでしたが、学生には、「夢を持ってください。そしてとにかく行動してください。あきらめずに努力すれば支援してくれる人が必ずでてきます。」と励ましました。水野先生をはじめ多くの先生や学園関係者が学生の財政面、活動場所などについて援助をしてくださった結果、2003年には機体を製作することもできました。最近の学生は失敗することを恐れるあまり何かにチャレンジすることが少なくなっているといえます。しかし、学生の多くはほんの少しのきっかけさえあれば自分たちの夢に向かって動き出し、驚くほどの能力を見せてくれます。次頁は鳥人間サークルの活動目標です。

「鳥人間コンテストに出たい」という同じ目標を持つ仲間と、飛行機製作を通して助け合い、協力し目標を実現する。

このプロジェクトでは自分達の力で何事も挑戦する事により、体験を通して工学を学んでいき、そして満足のいく飛行機を作るために自発的に学習し、技術的進歩をしていく努力をする。組織の中で自分の役割を自覚し、全員が自分のやれることを精一杯やり、日々納得のいく作業を行い、責任感を持って行動し、また、自分の思考や主張の伝え方を考え、また相手の気持ちを理解しようとする姿勢を大切に、互いを尊重しあうことの出来る人間になる。



初期の活動の様子

彼らの活動は多くの人の支援がなくては続けられないということを彼らは良く理解しています。教職員に会ったら元気良く挨拶をするのも日ごろの支援に関する感謝の気持ちです。理科教室では大学に来てくれた子供たちに記念写真を配るなど機体の製作以外でも多くのことを学んでくれています。大学で学ぶこと目標を失っている学生が多い、何がやりたいかわからない学生が多いといわれる昨今ですが、工学院的の学生には、彼らのように何か一つ打ち込めるものを見つけてほしいと思います。10名程度の仲間がライトプレーンを作ることから始まったWendyの活動ですが、今ではメンバーも70名を超え、大会に参加できるまでになりました。今年も琵琶湖に向けて活動中です。応援よろしくお願ひします。



2004年度機体調整の様子工学院大学犬目キャンパスにて

第11回理科教室に参加して

機械工学同窓会 小倉昭夫

2004年8月21日に全国支部長会が八王子キャンパスで開催されたので、おかげさまで8月21日、22日の2日間理科教室に参加することが出来た。

天気もよく、朝から非常に混雑していた。抽選によるテーマは遠慮して、短時間で参加出来るテーマを精力的に廻ることにした。正直言って、八王子キャンパス内をこれだけ歩いたことはなく、全然違う目で学内を見ることが出来たのは素晴らしい収穫であった。

地震防災環境研究センターは奥にあるため、気が付かない人が結構いたみたいで、PRをしながら歩いた。しかし、さすがに関心のある人は家族を連れて「震度7」の揺れと免震装置を使ったときの揺れと両方を体験していた。私も地震の怖さを改めて感じたので多くの人に体験してもらいたいと思った。

初日の1階受付に「三浦学長、河野常務理事、横山学長補佐」と3人の先生がおすわりになっていた。学園のトップの理科教室に対する意気込みを改めて感じた。

文部科学省による「特色ある大学教育プログラム」の採択が発表されたが、全国の国公私立大学、短大、約1200校のうちから534件の申請があり、今年度の採択件数は58件と狭き門。尚2年連続は「工学院大学、慶応大学、中央大学」の3校だけでした。

本学の採択されたプログラムは「理科教室の展開と支援学生への教育波及効果」で8月21日12時より3号館3105教室で採択記念報告会が催されたので出席したが、本当に素晴らしいことと思う。



会場を歩いていると一角に「未知へのチャレンジ」に頑張っている今年の琵琶湖のプラットホームから飛び立った滑空機とバードマンの仲間がいたので写真を撮らせてもらった。

初出場の悪天候のなか20チーム中11位の成績でしたが、吹き荒れる風と雨の中、木村副学長を先頭に水野学長補佐、飯田助教授、足立助教授、そして学生がびしょぬれになりながら滑空機の最終組み立てをされていて頭が下がったと応援に駆けつけた機械同窓会の杉山会長よりお聞きした。「滑空への憧れをしめて頑張った工学院大学鳥人間」は先生、学生が一心一体で琵琶湖へ飛んだと思います。

“そうなんです”その日の栄光のパイロットは機械工学科の富川昌義君でした。



さて、理科教室に戻りまして、子供さんを3人連れた若いお父さんに会いました。「テーマ50 紙を大切に自然環境を守ろう」で古紙で作った色付き紙綿で模型を子供さんと作っていました。作品が乾くまで時間がかかるといわれて他のテーマに子供さんを分けて参加させていました。汗だくで乾いた作品を取りにきたので、もう一度聞いてみました。「初めて町田から来ました。素晴らしい企画でびっくりしました。とても1日では廻りません。来年は朝早く来て2日間回りますよ。そうそう、入場者に番号札を渡してつけさせると子供の迷子が直ぐわかるのですが。」と話していました。

今度はお母さんに聞いてみました。「素晴らしい企画で先生、学生さんが真剣になって説明し実験のお手伝いをしてくれる、もっと日数を増やしてください。贅沢なお願いですが、食堂が混んでおり、昼頃いったらメニューが少なく残念です。来年はお弁当を持ってくるので雨が降っても休める場所を増やしてください。」と話していました。そういえば、親子連れが土手に座って食事をされていた方も結構いました。でも「学食」を楽しみにお孫さんを連れられた校友も結構いました。私もその一人ですが。

中・高校校舎4号棟1階エントランスホールの「テーマ2 さわってみよう海辺の生き物」に来ました大勢の子供がウニ、ヒトデなどを見に賑わっていた。ここでは附属中学の橋本教頭先生が水槽の側でカニをつまみあげて大きな声で「このスベスベまんじゅうカニは食べると害があり、危険ですよ。」と説明されると子供達はびっくりして聞き入っていた。ウニの説明もトゲは手で触るとおれてささり危険とか、管足は先端が吸盤になっていて出たり入ったりするとか、蛸はアサリが大好物とか話されていた。

教頭先生の熱心な説明を聞いて、子供達が理科教室に来てよかったと必ず感じていると私は思いました。



テーマとして「石鱈を作ろう」「折り紙建築」「光ファイバーで星座模型を作る」「昆虫ロボット」「セロファンテープで貼り絵を」「ガラスと遊ぼう」「小枝で作ろう本物そっくりの昆虫」がものすごく印象に残りました。

本当に先生、学生の理科教室に対する対応が花を咲かせ、「特色ある大学教育支援プログラム」の採択に繋がったと思います。第12回を楽しみにしております。



支部だより

学園支部

長島珍男 学園支部・支部長

現在の校友会組織は、いわば縦系組織ともいえる6単体同窓会及び各同窓会にも所属する横系組織ともいえる55の地域支部と3の職域支部により構成されております。しかし、本学園出身者の本学園現役教職員による職域支部の一つともいえる「学園支部」がありませんでした。近年、教職員の間からも、その設立の要望がたかまっておりました。そこで、昨年9月に設立総会が開催され、多数の方から支部設立の賛意を得ました。10月には校友会理事会で本支部の設立が承認され正式に発足する運びと成りました。発足当時の会員は109名でその内訳は、大学機械系16名、大学化学系15名、大学電気系27名、大学建築系13名、高等学校10名、専門学校11名、事務員17名でした。本学園の専任教職員は391名（但し、32名の学生職員は含まない）ですので、本学園出身者が占める割合は30%弱といえます。本支部の正式名称は「社団法人工学院大学校友会学園支部」で、「校友会ならびに母校の発展に寄与し、併せて会員相互の親睦と福祉の増進を図る事」を目的としております。

本支部の特徴は徐々に色付けされて行くかと思いますが、18歳人口減少時代に突入し容易ならぬ本学園の今後の維持・発展のために本支部が尽力できればと思っております。先輩支部のご意見も頂きながら活動

していく所存でございます。よろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。以下に役員名簿を記載しました。

<支部長>

応用化学科・長島珍男、

<副支部長>

機械システム工学科・加藤 隆

応用化学科・山口和男

情報工学科・高橋静昭

建築都市デザイン学科・谷口宗彦

高等学校・太田雅康

専門学校・欠員

八王子教務課・大谷光利

(以上7名)

西東京支部

青木俊之 西東京支部・支部長

西東京支部は16年6月5日、「16年度支部総会」を八王子クリエイトホールにて、校友会組織部、太田理事、中島理事、近隣支部より7名の支部長、副支部長にご参加いただき、25名の出席で開催しました。当日ご承認いただいた事業計画にもとづき1年の行事を行ってきました。

1. 8月21日「第10回工学院大学わくわくサイエンス祭りに参加、当日は全国支部長会が八王子キャンパスで開催され、全国からおおぜ



いの支部長さんが参加されました。

2. 9月11日 慣例のサントリービール

武蔵野工場の見学会を暑気払いを

兼ねて参加者16名で実施しました。

3. 10月2日 NHK大河ドラマで

多摩地区の話題になっている「新

撰組史跡」の見学会を18名の参加

で行いました。日野新撰組ガイド

の会の小川修一郎さん素晴らしい

案内で秋の半日楽しい史跡めぐり

が出来ました。

4. 10月10日 工学院大学一部文化

会吹奏楽部の第25回定期演奏会に

フラワースタンドを寄贈し、参加

しました。毎年楽しい演奏会を八

王子の一角で催しています。1年

かけた猛練習の成果が素晴らしい

形で観衆を魅了しています。吹奏

楽部の顧問の先生、部長さん、多

摩地区にはたくさんの校友がいま

す。もっとPRしておおぜいの方

に聴きに来てもらってください。

5. 17年1月15日 新年懇親会と

中島酒造見学を29名の参加で行

いました。搾りたての地酒「高尾

山」を試飲し、酒造場、醸造場の

見学をし、新酒と酒粕を土産に帰

途につきました。

西東京支部はおかげさまで近隣支

部の皆様のご協力を得て各種行事を

行って交流を深めております。ほん

とうにありがとうございます。

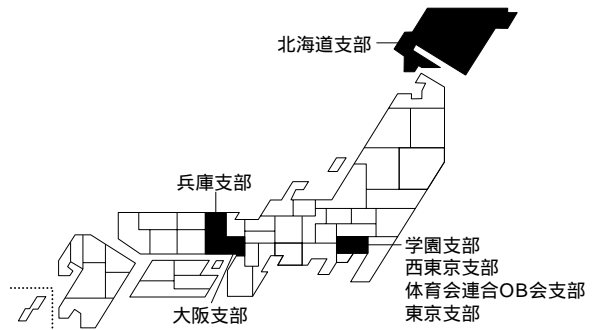
17年度も支部長を先頭に頑張り

ます。宜しく願いいたします。17

年度の総会は6月4日を予定してい

ます。その前に「支部だより11号」

を発行いたします。



兵庫県支部

石川良子 兵庫県支部・役員

兵庫県支部は おかげさまで昨年創立25周年をむかえました。

この記念すべき総会をホテルオークラ神戸にて開催し、三浦宏文学長・長嶋秀世校友会長をはじめ近隣支部からもご臨席を賜り和やかな総会ができより一層の友好を深めることができました。

第一部はゴルフコンペ、そして第二部の総会に先立ち三浦宏文学長の記念講演「ロボット研究の楽しさ」は大変聞きごたえのある有意義な時間でした。昆虫も子犬も人間もその動きが三浦学長によって上下左右おもしろいように分析され聞く者の興味をそそりあつと言う間の時が過ぎました。

兵庫県支部の自慢を少しお話させていただきます。

一番は何といっても「仲の良さ」です。これは岡本前会長のご尽力が大きいのですが、それを引き継ぎ更に実のあるものに大きくした奥濱現会長のお力です。これは皆が認めるところで同時に見習うところでもあります。

二番は総会に出席する会員の年齢



層の幅が大きいところです。確かに毎年それとなく平均年齢が上がっては来ていますがそれでも若い方々が参加して下さっていることは私達お世話係としては誇りに思えるし大切にしたい部分です。

17年度は10月1日(土)を予定しています。5年後の30周年に向けて奥濱会長のもと和気あいあいやっていきたいと思えます。今後ともご支援ご協力を心よりお願いするしだいで。

最後になりましたが10月に開催される全国大会のご成功を心より祈願しております。

体育会連合OB会支部

田中嗣規 体育会連合OB会支部・支部長

体育会連合OB会支部は今年で16年目を迎えました。

昨年校友会の支部として承認をいただき、事務局を大学(新宿)校友会事務局内に置いています。

校友会ならびに母校の発展に寄与し、連合OB会会員の親睦を深めることを目的として活動していますが、大学体育会、クラブ活動の合宿や練習への参加、各クラブの指導者に対するリーダーキャンプに出席、又ホームカミングデーへ参加させていただく等、直接学生諸君との活動を通じた事業を行い現役クラブ活動等への支援と協力をすることも重要な目的です。

これらの目的及び事業は我々支部



の大きな特長であり、今後学生諸君が卒業し、新しい校友会のメンバーとして参加していただける機会になれば、大変意義のある事業と思っています。理事会は現在、アイスホッケー、応援団道、空手道、航空、山岳、自動車、柔道、バスケットボール、ボクシング、ヨット、レスリング等各部のOB、学生代表の諸氏により構成され、隔月第2金曜日事務局会議室にて開催しています。総会は毎年6月頃に行われ、大学理事長、学長、校友会会長、後援会会長、各クラブOB、学生の皆様にも出席をいただいています。

平成16年度の総会は、大学学長三浦宏文先生に「ロボットと人間社会」と題し、記念講演を御願いたしました。出席者は御来賓、学生、130名、連合OB会35名と、多くの方々にも出席していただき大変感謝いたしております。

後に行われました懇親会では、新入部員の紹介が有り、大変和やかなそして有意義な、総会が行われたと思っています。

今後多くの体育会OBの方々に連合OB会に参加を御願いし支部としての活動を積極的に行っていきたいと思っています。クラブによりOB

支部だより

会の無いクラブもあると思いますが、どうぞ参加して下さい。体育会連合OB会のホームページ <http://www5f.biglobe.ne.jp/rengo-ob/> が有りますので、ぜひ開いてみて下さい。宜しく御願ひ申し上げます。

北海道支部

廉澤映治 北海道支部・幹事長

平成16年9月11日(土)18時より京王プラザホテル札幌にて北海道支部総会を開催いたしました。

本部から組織部理事の谷口教授に出席をいただき、八王子校舎のスライドを交え中高一貫の教育のあり方をお話していただきました。

また今回は後援会(父兄会)の北海道支部からと今年、全国大会が開催される青森支部より数名の参加をいただき、青森支部長の工藤様からは「大会にきてけへ」の意気込を聞かされ、「行くべ、行くべ」と酔っ払っていた暇と金のある道支部員が多くいた様な……(?)35名の参加でした。今年は札幌市以外での支部総会を予定し、交流を深める計画です。

東京支部

若林勝司 東京支部・支部長

1. 先日、付属高校の恩師、牛木亮三先生が八十歳をむかえましたので、「傘寿の会」を新宿の料亭で開催いたしました。出席者の中には、卒業以来の再会者を含めて十



数人が参集して夜遅くまで飲み、歌いました。会社や家族の話など近況を十分に語り合うことができました。高校生活は青春の1ページではありましたが、恩師と同窓生はよき友であり宝であると再確認をいたしました。恩師、牛木先生のご指導が今の私にとって大きな指針となっています。今後も二年に一度は、牛木先生を囲む会を開こうと参加者で誓い合いました。

2. 東京支部の総会を昨年10月24日に新宿校舎にて三浦学長、城戸校長、長嶋会長、南雲前会長、近隣の支部長さんをはじめとする多くの来賓をお迎えして支部総会を開催することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。また、総会後には、懇親会に入りまして和やかに懇談ができました。青森支部からも全国大会開催にあたり、ネーム入りのりんごを例にアピールがありました。
3. 東京支部では、サークル活動を活発に開催しています。囲碁サークル、俳句サークル、釣りサークル、ゴルフサークル、写真サークル、社会見学サークルなどがあります。興味がある方はどしどし事

務局(TEL, 03-3342-2064)へお問い合わせください。

大阪支部

小川明生 大阪支部・支部長

大阪支部では、支部総会を学園の父母懇談会に合わせて同日に同じ会場で開催しています。学長ならびに数名の各科教授に参加して頂いております。

学長から学園の近況説明等、昨年は大学の鳥人間コンテストへの参加も有り、担当教授から説明していただきました。台風の中でのコンテストで、結果は残念でしたが、今年こそは良い成績を期待しております。昨年の活動は、7月18日に支部総会、8月21日に全国支部長会議及びワクワクサイエンスに参加、10月2日兵庫支部25周年支部総会、3月12日後援会西部地区支部活性化検討会議に参加しました。兵庫支部総会では学長も来て頂き、研究テーマである、ロボットに付いて約1時間講演して頂きました。

兵庫支部とは、共催でゴルフコンペを毎年行っています。今年は大阪が担当なので、これから計画します。ごたぶんにもれず、若い方の校友会への参加が少なく、父母懇談会に向き、卒業後校友会への参加を呼びかけています。今年10月に青森で校友会全国大会も有り、校友の皆様には、全国大会ならびに、支部活動への参加をお願いします。

工学院大学の「総合力」は、日本の私大第11位

東洋経済新報社が発行している週刊東洋経済（特集：本当に強い大学 2004年10月9日発行）によると、工学院大学の評価は私大の中で総合11位となりました。「財務力」・「経営革新力」・「人材創出力」・「研究力」の4項目で評価され、それぞれ36位・21位・3位・32位という高い評価を受けました。特に人材創出力で文部科学省が優れた学生教育を実践する大学を選び支援するGP（グッド・プラクティス）の採択や就職率などで高い評価を受けました。



工学院大学のホームページの使い勝手評価が全国300大学中第4位

- 「全国大学サイト・ユーザビリティ調査2004」より -

最近では企業・個人でホームページを作り、情報の発信をすることが日常的になりました。その中で大学のホームページは受験生・在学生や保護者への情報発信だけにとどまらず、産官学連携などや社会人教育など一般社会からの関心も高まっています。そうした中で大学のホームページは特定の利用者だけでなく一般の利用者にも「見やすい・使いやすい」ものでないといけません。(株)日経BPコンサルティングで大学サイトのユーザビリティ（使いやすさ）を横断的に評価した「全国大学サイト・ユーザビリティ調査2004」で、調査した大学300サイト中、工学院大学は4位にランキングされました。調査は「使い易いか」、「来訪者が目的の情報を得られ易いか」、「問い合わせなどし易いか」など6つのカテゴリごとに評点され、合計点で評価されています。

	大学名	大学種類	スコア
1	金沢星稜大学	私立大学	62.56
2	明治学院大学	私立大学	61.00
3	成城大学	私立大学	60.67
4	工学院大学	私立大学	59.94
5	仁愛大学	私立大学	59.94
6	昭和女子大学	私立大学	59.00
7	獨協大学	私立大学	58.78
8	京都学園大学	私立大学	58.67
9	常葉学園大学	私立大学	57.72
10	聖心女子大学	私立大学	57.22

日経BPコンサルティングでの紹介ページ

<http://consult.nikkeibp.co.jp/consult/release/uni040915.html>

第4回 ホームカミングデー 新宿校舎

「卒業生の皆様お帰りなさい」の言葉に感動されながら第4回ホームカミングデーが平成16年11月3日文化の日に本学3F階段教室にて開催されました。今回は本学園卒業後20年から40年の方々が対象となりそれぞれ招待され学園関係者と共に約300名が参加しました。

多くの方々は卒業後母校から離れがちになるのが現状ですが、学校法人のこの企画により「懐かしい母校と友人を再発見出来る」機会に恵まれ皆さんで喜びを分かち合うことが出来たことと思われまます。

今や日進月歩で時代は変わりつつありますが、卒業生と大きく発展した母校と密接な連携を図りつつ、卒業生の出来ることを母校の更なる飛躍に結びつけることが出

来るならばこれはたいへん喜ばしいことであります。

歓迎式典は大橋理事長、長嶋校友会会長のご挨拶から始まり卒業生代表4名のそれぞれ熱のこもるご挨拶を頂きました。環境化学工学科教授御園生先生の記念講演「循環・持続そしてグリーンケミストリー」を拝聴した後、1Fアトリウムに会場を移して懇親会が行われました。三浦学長のご挨拶、木村副学長、城戸中・高等学校長、大勝専門学校長によりそれぞれ学園の近況が述べられ、卒業生代表加藤勇氏（昭和37年大学電気工学科卒）の乾杯により懇親を深められました。アトラクションとして大学1部吹奏楽部による演奏並びに大抽選会が行われました。さらに中層棟7Fの学生食堂において同窓懇談コーナーが設けられ盛大に終ることが出来ました。

平成17年11月には第5回ホームカミングデーの開催が予定されておりますので、ご招待対象に該当されます方は積極的にご参加くださいますようお願いしております。

2004年度の機械系学科の活動報告



田村久義

今年度は機械工学科と機械システム工学科が3年前に国際基礎工学科が取得したJABEEに申請するため、この1年を費やしたといっても過言でないで、これからJABEEについて述べる。

機械系学科のJABEEに関する委員会としては機械工学科と機械システム工学科の2学科からなる『JABEE検討委員会』とこれに国際基礎工学科が加わった『機械系JABEEプロジェクト委員会』を設けた。また、学科の教育委員会にカリキュラム検討WG、教育改善WG、教育成果評価WG、FDシステムWG、教員間連絡ネットWG、導入教育WGの各種委員会と共通科目の先生方との検討委員会の数学関連科目担当者会議、物理・化学関連科目担当者会議、外国語教育検討会議を設けた。そして全学のJABEEに関する委員会としては教育委員会にJABEE WG委員会、基礎教育検討WG委員会、FD WG委員会とJABEE認定委員会が関係する。これらの委員会のほとんどは国際基礎工学科がJABEE認定を受ける数年前から存在している委員会である。この様にJABEE申請には数年前からの準備が必要である。

申請するためにはJABEEのワーキング(WG)委員会を作り、このメンバーを中心に各担当科目の先生方(共通科目および専門科目担当の専任教員と外来教員の協力のもと)との協議を何回も行い、3年前からの科目ごとのシラバス(Syllabus:授業計画の概要)に基づいた学習・教育目標、教育方法、教育成果、成績評価報告書および授業改善計画・報告書(学生による授業評価アンケートと教員による改善点)などの提出書類を作成し、提出した。この提出書類をもとに各学科に分かれて審査された。

審査は11月下旬の28~30日の3日間行われ、29日には機械系教員の案内のもと約10名の審査官が八王子校舎と新宿校舎を訪れ、授業参観や諸設備の見

学を行った。また、学部学生や卒論生、院生等の面接も行われ、最後に各先生方に対する個人面接が行われた。このようにして過去の成績等による書類審査の結果、今後の努力目標が何点か示されたが、全体の審査結果から合格の判定をいただいた。正式な認定書による通達は春頃の予定である。

これらJABEEの一連の詳細については機械工学科については藤江先生が、また機械システム工学科については北林先生が機械工学同窓会『KUMEA27号』に記載しているので読まれることをお勧めしたい。

次に学科としてJABEEに関して示したことについて、次に述べます。

JABEEとは日本技術者教育認定機構(Japan Accreditation Board for Engineering Education)の事で、機械工学のカリキュラムは技術者教育プログラムとしての認定を目指している。認定の目的は以下の二点である。

- ・ JABEEが示す統一的規準に基づいて理工農学系大学における技術者教育プログラムの認定を行い、教育の質を高めることを通じて、わが国の技術者教育の国際的な同等性を確保する。
- ・ 技術者の標準的な基礎教育として位置づけ、国際的に適用する技術者育成の基盤を担うことを通じて社会と産業の発展に寄与する。

JABEEは新しい技術者資格制度で外国の技術者資格制度と整合性のある制度で、2001年4月から施工された。文部科学大臣が指定するJABEEの修了者は技術者に必要な基礎教育を完了したものと見なされ、技術士第1次試験を免除され直接、修習技術者として実務修習に入る事ができる。4年間、実務教育プログラム終了後、第2次試験を受け合格したら、「技術士」となる事ができる。

JABEEで卒業した技術者は実務経験と継続専門

教育（Continuing Professional Development, CPD）を通じて能力開発を続け、より高度な技術者へと成長する。適切な時期に国が定める技術資格「技術士」を取得し、公認された技術者としての地位を確立し、その後も仕事を続けながら技術士CPDを通じて能力のアップデートを続ける事ができる。

本学の教育理念・目標は「持続型社会を支える科学技術を目指す」であり、日本で最初に作られた私立工科系学校として、1世紀以上に亘り、科学技術の教育を続けて来ており、専門家としての科学と技術を身に付け、深い理解と豊かな人間性を持った技術者を社会に送り出してきた。

機械系学科では新しい機械技術を開拓する事のできる、専門性に基づいた幅の広い分野に対する問題発見・解決能力、デザイン能力、コミュニケーション能力、自己学習能力、総合能力および技術者倫理を有する技術者を育成するプログラムを定義し、実際に物作りに関する技術を有する。実務に強い技術者を社会に送り出す事を目標としている。

技術者教育の認定において求められる知識・能力には

地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養

技術の社会および自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任など技術者として社会に対する責任を自覚する能力（技術者倫理）

数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力

該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力

種々の科学・技術・情報を利用して社会の要求を解決する為のデザイン能力

日本語による理論的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力および国際的に通

用するコミュニケーション基礎能力
変化に対応して自主的、継続的に学習できる能力
与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
等がある。

JABEEの認定プログラムを修了して卒業した場合の利点としては

JABEEプログラムを履修すると単に工学知識の詰め込みだけでなく、それを応用する能力、コミュニケーション能力、自己学習能力などが強化されるので、即戦力が期待される社会に自信を持って巣立つ事が出来る。

質の高い技術者基礎教育を受けた事が、客観的に証明される。JABEEに対する産業界の認識がまだ十分とは言えないが、やがては就職などあらゆる局面で、認定プログラム修了者が有利な評価を受ける事になる。

技術者教育の国際同等性を認め合う取り決めとして、ワシントン協定（Washington Accord）がある。JABEEはこの協定に暫定加盟しているが、近い将来正式加盟となれば、JABEE認定の教育プログラム修了者は、欧米主要国の認定プログラム修了者と同等に評価され、世界でグローバルに活躍する事ができる。

認定プログラム修了者には技術士一次試験が免除され、卒業後直ちに修習技術者として実務経験に着手し、4年後には技術士二次試験を受験する事ができる。即ち、最短距離で国家資格である技術士を取得する事が出来る。

以上に述べてきたが、JABEEは5年後に再審査されるので今後の5年間、教員と学生の努力が必要になってくると同時に、学外からの評価が必要であり、今後校友会の皆様の参加も期待し、ここで報告を終わりにします。

インタビュー

第3の化学系学科としての 「マテリアル科学科」



橋本和彦 工学院大学マテリアル科学科教授

Q1 2005年度はいよいよ第1期生が社会に巣立って行かれますが教える立場から見た学生の意気込みとか心構えはどうか？

マテリアルとは、物質・材料・素材という意味の言葉です。マテリアル科学科は、応用化学科の物質化学コースのかなりの部分と環境化学工学科の材料工学コースの部分とを出し合って発展させて2001年4月に設立され、2005年3月に第1期生が卒業します。従来の金属を中心とした他大学の材料工学科とは大きく異なり、高分子、セラミックス、金属の3大材料およびそれらの複合材料、すべてにわたる技術者の育成を目指しています。21世紀を支える材料・素材は、物質の構造、性質、機能を原子・分子のレベルで考えてデザインする必要があり、そのために「化学」を基盤においた教育で基礎を築き、科学（サイエンス）と技術（テクノロジー）の両面からマテリアルを学んでいます。このような教育を行うために組み立てられた独自のカリキュラムを、第1期生は意欲的に消化しており、「マテリアル」に対する見識が従来より高くなっています。また、インターンシップに参加する学生が増えており、実社会に出ていく意欲のある学生が多いと感じています。

Q2 マテリアル科学科は緻密な研究を進められていると思いますが、世間一般に分かりやすく言うところのどのようなものにとり組んでおられますか？

当学科で現在研究している主なテーマを紹介します。

1) QOL（生活の質）を支える医療・福祉材料の開発をしています。具体的には損傷を受けた生体組織に機能をできるだけ正常に近い状態に回復させるバイオマテリアルのうち、人工股関節材料に対する腐食、摩耗挙動、生体適合性を検討しています。

また現代社会を支える機械・電子部品の軽量化・マイクロ化のための材料技術のさらなる高度化には、高機能性と多機能性を付与するミクロからナノレベルでの薄膜構造制御技術の確立が不可欠とされています。これらのマイクロマテリアルの信頼性の向上ならびに薄膜積層構造の最適化に向けた種々の取り組みも行っています。

2) 鉄のように強くアルミニウムのように軽く、しかもセラミックスのように耐熱性の高い材料の研究を行っています。このような材料は宇宙ロケットの機体やエンジンを作るのに役に立ちます。また熱から電気へ直接変換できる熱電半導体の開発を行っています。この半導体は宇宙での観測や、その観測結果を宇宙船から地上に送信するための電源に用います。



研究に取り組む先生と学生（マテリアル科学科）

ところで、これらの宇宙で活躍する材料は、地上でも高性能を発揮します。例えば、強い材料を使って自動車を作れば少量の材料ですみます。軽い材料を用いると燃費が良くなります。また熱電半導体を用いれば、工場廃熱や地熱、海水などこれまで使えなかった熱を電気に変えることができます。つまり、軽く強い材料や熱電変換半導体は私たちの生活の省資源、節エネルギーに役に立ちます。

3) 資源・環境、安全・健康に貢献するセラミックスの物性・機能の向上をモットーに、主にカルシウム系セラミックスの新しい合成技術の開発と高機能化に関するマテリアル（材料）研究を行っています。今、進めている主な研究は、建築廃材として大量に発生するセッコウの有効利用としてユニークな形状であるチューブ状アパタイトに変換する反応、セメント鉱物と有機酸との新規無機/有機複合化合物の合成と重金属イオン除去材としての応用、遷移金属を導入したナノ多孔質セラミックスの合成と環境触媒への応用、高レベル放射性廃棄物を安定に閉じこめることのできる新組成ガラスの開発、燃料電池の固体電解質への応用を意図したイオン導電性結晶化ガラスの開発です。

4) 高分子材料を思い通りに精密に設計合成する、「ナノテクノロジー」の基礎として、「リビング重合法の開発」と「自己組織化超薄膜の設計」を研究室テーマの第1の柱にしています。またプラスチックやゴムなどの汎用高分子のみならず生医学材料などにも「地球環境に負担をかけない高分子」の開発が望まれているので、生物資源、具体的には糖とアミノ酸からからの地球環境への負荷の少ない新規高分子を創り出すための化学、「グリーンケミストリー」を第2の柱にしています。例えば土中で自然分解する生分解性ナイロン、水中で加水分解するあるいはケミカルリサイクル可能な新規高分子設計などです。またバイオテクノロジーの発展に伴い、「遺伝子工学」、「タンパク質工学」とともに、最近では「糖鎖工学」が大きな注目を集めています。生物認識信号としての糖鎖の機能を人工の高分子に植え付ける(糖鎖高分子と呼ばれる)試みも行っています。

5) 高分子材料は、長い鎖状分子から成る分子性物質である点が他の材料と大きく異なる点です。高分子物質は、同じ名称の物でも分子量や化学組成、立体規則性、分枝構造など様々な分子特性が、試料ごとに異なり、また、その値も同じ試料中でも分子ごとに異なる多分散性を示します。これら分子特性は、その高分子材料の性質に大きな影響を与えると共にその高分子物質が生成した反応機構についての情報を示すものでもあります。

低環境負荷高分子としての生分解性脂肪族コポリエステルや、高機能性高分子としてのブラシ状コポリマーなど様々なポリマーを対象に、上述の多分散性を中心とした分子特性解析を行い、それらの分子特性と高分子材料の構造と物性あるいは高分子生成機構との関係を解明しています。

6) 人が健康に過ごしていくことが出来るように、高度医療・福祉等を支える材料システムの開発と、廃棄物のリサイクル・最終処理に関わる研究を展開しています。特に、前者については、各種高分子材料に特殊な機能を付加して用いることを目的に創製・適用・評価を実施、安全性や信頼性を有する材料の提案を行っています。他方、後者では、持続型社会を支えるリサイクルシステムの構築を念頭に、有機系廃棄物のリサイクル支援技術及び医療系廃棄物の終末処理技術の開発を試みています。

「マテリアル」は様々な素材と組み合わせ、パソコン、携帯電話、自動車、冷蔵庫など様々な製品と

して我々の生活を支えています。先に述べました研究テーマは、学術的に価値の高いものばかりですが、その多くは実社会で直ちに役に立つことを想定して研究していることが特徴です。

2005年3月に卒業するかなりの数の第1期生がさらに大学院修士課程に進学する予定ですので、上記研究テーマを押し進める旗頭になっていくと期待しております。

Q3 これから入学を希望される新入生にとってマテリアル科学科の魅力とかアピールするポイントは何ですか？

このようにマテリアル科学科は、我々人間生活のほとんど全てのモノの素材として用いられている高分子、セラミックス、金属、およびそれらの複合材料、すなわち「マテリアル」を、化学を基盤として原子・分子のレベルから考え、科学(サイエンス)と技術(テクノロジー)の両面から応用できるように教育しているため、実社会での即戦力として、また応用力のある息の長い技術者として育ていくと確信しています。副次的なこととして、このように基礎に重きをおき、かつ応用をも目指す教育方針を採っていること、および「理科」と「工業」の教員免許を取得できるカリキュラムを組んでいることから、いずれか好みの方の教員免許を取得することができます。



材料の耐久性実験(マテリアル科学科)

アクセス

マテリアル科学科に関してご興味のある方は、インターネットで下記へアクセスしてください。
<http://www.kogakuin.ac.jp/gakka/1b3/index.html>

深紫外半導体レーザー研究裏話

川西英雄 工学院大学 電子工学科

私の見た夢は

最近、といっても、すでに1年以上が経過したのだが、長年、私が「夢」としてきた研究が、最近、僅かだが実現でき、大いに喜んでる。

私の「夢」とは、「紫外から深紫外の波長領域でレーザー光を半導体から発生したい」であった。そして、「241.5nmの世界で最短波長の深紫外半導体レーザー」が初めて達成できたのだ。

工学院大学・八王子校舎にある研究室でそれが達成できたのが、2003年の10月5日。この研究成果を、すぐに論文としてまとめ、アメリカ・物理学会論文誌「Appl. Phys. Lett.」の2004年5月版に掲載された。

今は、「ファースト・ランナー」として、更なる半導体レーザー波長の短波長化を、具体的には、210nm波長域のレーザー発振を目指して研究を継続している。それが我々の最終ゴールである。この記録は、向こう1年から1年半は破られないだろうと、私たちは豪語している。それ程、この研究の難しさと、研究を行う事の無謀さがあった。

この波長域のレーザー光の主な応用としては、現在新聞やテレビで騒がれているDVDや、あるいは次世代のブルーレイやH-DVDを、将来、遙かに凌ぐ記憶容量を持つ超高密度光ディスクがある。最終的には、12センチの大きさの光ディスクは、400GB程度の記憶容量を持つ。また、光ディスクの記録層を多層構造にすると1TBの記憶容量、も視野に入ってくる。

味わった悔しさ

この研究テーマを決めたのが1989年3月頃である。この研究テーマに決めるまで幾つかの変遷があった。このことに少しふれることにしよう。

工学院大学を卒業後、他大学で研究する機会が得られ、約6年半、工学院大学以外で過ごした。1979年から約1年間はアメリカのミネアポリスの民間研究所でポスドクとして外国生活を体験した。帰国後、1980年10月工学院大学に帰ってきた。

工学院大学で開始した研究テーマは「赤色半導体レーザーの開発」であった。これは、現在、「DVDレコーダ」に組み込まれている赤色半導体レーザーとなり、広く世界中で利用されている。この時、同じ研究をしていた研究機関は、世界的に見ても、電総研(当時)だけであった。当時、先端を走っていると自認していたが、ある程度研究成果が上がり始めた頃、「日経エレクトロニクス誌」にも工学院大学の研究内容が記事として紹介された。

そんなおり、日本の複数の電気機器メーカーが研究を開始し、「金」と「人」とを投入し、簡単に我々を追い越していった。

このときの連続の経験から、「研究設備が欲しい」といった気持ちが強くなった。研究装置が貧弱だから、大

手電気機器メーカーに負けただけである、と、自分自身を説得していた。その時の悔しさは今でも忘れることは出来ない。

そんな経緯で、研究テーマを新しくする必要性を強く感じ、変えることになった。それが、1989年3月であった。

そして、いよいよ新しい研究テーマへ

(1 調査の為の世界旅行)

さて、どんな研究テーマにしようかを、考え出した。その時に絶好のチャンスが訪れた。本学にある「海外出張(研修)制度」である。それは、新しい研究テーマの模索の旅であった。世界一周は、東回りで、最初は、ロサンゼルス郊外で開催された国際会議での発表後、アメリカを西から東に横断、更に、イギリス・ロンドン、フランス・パリ、の代表的な研究機関を幾つか訪問した。もちろん、一年間を過ごしたミネアポリスの古巣も訪問し、貴重な情報を多く得た。と同時に、その時の友人は、現在も同じ研究をする仲間となり、国際会議などで会っている。その内二人は、現在、コロラド州立大学、ノースカロライナ州立大で、それぞれ大学教授となっている。

(2 そこで得た結論は)

このときの旅行を通して得た貴重な情報から得た結論は、「短波長化に向かって研究を進める」であった。その結果、工学院大学で実施する研究テーマは、当時脚光を浴び始めていた「青色発光ダイオード」でもなければ、当時レーザー発振が達成されていなかった「青色半導体レーザー」ではなかった。「紫外から深紫外域半導体レーザー」の研究開発である。

帰国後、その可能性の探索が始まった。検討課題は、「利用できる半導体材料は何か」、「その材料を利用するには、何が基本的な問題なのか」であった。

前者の検討では、ミネアポリスにある古巣での議論が大いに役立った。最初に滞在した1979年当時、まさに、その研究所内で、現在、私が研究をしている「窒化ガリウム(GaN)」の研究を密かに開始していたのである。再訪問の結果、利用できる半導体材料は「GaN」と決まった。

後者は、結晶を成長するのに「最適な半導体基板」が無い、であった。

当時、GaN半導体の開拓者として有名な赤崎勇先生のグループは、「サファイア基板」を利用していた。探索・検討の結果、工学院大学としては「炭化シリコン(SiC)基板」を選択した。

(3 研究環境の整備と卒業生の協力と研究資金の確保)

研究環境の整備に移った。以前、赤色半導体レーザーの研究で、委託研究を行ったが、その時寄贈されていた

「有機金属気相エピタキシャル成長装置（MO-VPEとかMO-CVDと呼ばれる）」を大幅に改良することであった。

次の課題は、SiC基板をどうやって手に入れるかである。恩師の末松安晴先生の紹介を受け、国内で唯一生産していた「新日本製鉄・エレクトロニクス研究所・半導体基盤技術研究部」を訪れた。そして、「SiC基板」の無償提供を受けることが可能となった。驚いたことに、その研究所には、私の研究室の卒業生である西川猛君が居り、まさにSiC基板の開発に携わっていたのである。この結果、「SiC基板」を当初から手に入れることが出来るようになったのである。

問題は研究資金の確保である。細々と研究を開始した後、幸い、1995年度から向こう三年間、日本私学振興財団（当時）の「学術研究振興資金」の援助が得られた。他大学の大きなプロジェクトに比べ、小さなプロジェクトであったが、このときの補助金は、現在の工学院大学における私の研究室での研究の出発点になった。初年度は150万円、2年目は200万円、最終年度は250万円であった。

その時の研究テーマは「ワイド・バンド・ギャップ四元混晶半導体材料による紫外線半導体レーザーの開発基礎研究」となっていた。当時、「紫外域半導体レーザー」を謳って研究費が確保できたのは、今も、奇跡と思っている。学会発表等や討論では、少し冷ややかな視線で私たちの研究を見ていた。その証拠に、「それ何の役に立つんですか？」が全てを示しているのではないだろうか。大手の電気機器メーカーの研究所の研究员は全て異口同音に、上の言葉を遠慮無く言っていた。

その後、科学研究補助金も少し頂けたとともに、ハイテクリサーチセンタへの応募の話が私まで届くようになった。1997年度の二回目の応募に際し、メンバーに加わらないかとの話を頂いた。この時に助言を頂いたのが、本学・情報工学科の長嶋秀世先生と、当時本学・総合研究所の相原衛氏であった。この時に、最先端・最新鋭の研究装置「有機金属気相エピタキシャル成長装置」が購入できた。このことが現在の研究の第二の基礎となった。

やっと、夢の一部が実現できたことと「神様のプレゼント」

5年間であったが、「研究が出来なかった」と言い訳が出来ない程度に、研究費を頂いた。また、ポストAMCの応募にも本来の研究とは異なるが、何とか理由をつけて、そこでの研究メンバーに加えていただき、3年間その研究が継続できたことが、今日の研究成果に繋がった。そして、昨年暮れ、やっとの事で「世界で最初」と言っても許される研究成果が、工学院大学の私たちの小さな研究室から生まれたのである。

それが、理詰めで実現できたことではない。事実、分析装置など未だに貧弱である。その研究環境の中でいる

いる工夫していると、突然、「神様のプレゼント」が研究者に与えられる。そのプレゼントは、「工夫していない人間には決して与えられない」といったのも、歴然とした事実だろう。この経緯は、2004年10月に発行された「ITUジャーナル」に書かれているのでそちらに譲る。

そして今は、競争が激しくなってきた

2004年の後半の現在、発光ダイオード及び半導体レーザーを含む紫外域発光デバイスの開発研究は極めて活発だ。特に、3 - 4年前にアメリカで、この分野への研究投資が集中的に行われたことから、日本も、特に公的研究機関が注目するようになってきた。当初の「何の役に立つのですか？」は、もう聴かれない。これを契機に、一部著名な大学や研究機関に国費が投入されている。

そのような状況でも、我々を凌駕する研究成果は向こう1年から1年半は決して出ないだろうと、豪語している。それだけの自信と知識の集積とがあるとともに、この分野での研究の「視点」が明快になっているからだ。

工学院大学から人材を送り出し、情報を発信し

小さな研究室で、工学院大学・大学院の学生諸君と、「でっかい夢」を見ながら、研究を進めている。ほんの僅かだが、それに共鳴してくれる学生が、工学院大学には居た。研究機関ではない工学院大学では、特定の研究や研究課題を通じて、人を育てる事が厳しく求められている。共鳴してくれた学生諸君は、不景気と言われ続けた過年度にも、就職不況はなかった。幸い、各人が希望する部門や業種に就職でき、活躍の場が与えられてきた。博士後期課程1名（2004年4月より、学位を取得し、松下電工の先行技術研究所へ）、修士課程2年生が1名（2004年4月、修士の学位を取得後、キャノンに就職）、修士課程1年生は、2005年3月に修了予定で、本田技研及び日立電線にそれぞれ研究者として就職が内定している。それ以前にも、この研究に参加したのは、修士14名、そのうち3名が博士の学位を取得した。

さらに、私たちの研究は、「深紫外半導体レーザーの実現」と、光関連に特定した産業分野であったが、そこで得た研究成果に、他の産業分野からも大変な興味を持って頂いている。すなわち、産業界との共同研究が、少しずつ「発芽」しつつある。

最後に、今日に至るまで、本稿の中で記すことはなかった学内外のたくさんの人たちに、たくさんの援助と励ましとを頂いた。特に、工学院大学では、このような研究環境を許して頂いたことは、特に有り難いものであると感じている。それらも合わせ、これまでお世話になったたくさんの方々感謝する。

建築系学科同窓会大交流懇親会 「大仮装フェスティバル2004」開催される

～趣向を凝らした仮装アイデアで卒業生・現役学生が楽しく交流～



優勝チーム

2004年12月4日に、工学院大学建築系学科主催の「大交流懇親会 ～大仮装フェスティバル2004～」が新宿キャンパス 1階アトリウムで実施されました。今年度は卒業生と各研究室現役学生とのより一層の親睦を深め、皆が気軽に参加でき、しかも楽しい思い出となる企画として「仮装」をテーマと致しました。

日本人にはあまり馴染みのない「仮装」というテーマでしたが、「研究室対抗」とし教員の皆様にも積極的に参加していただき、大いに盛り上がり、フェスティバルは大成功の内に幕を閉じました。

当日午後5時過ぎに、建築系学科同窓会・田野邊会長による「学生とどうやったら交流が図れるか考えました。同窓生とお会いして絆を深めていただきたい！」との挨拶で開会され。工学院大



大盛況のパーティー



鱒坂誠之 大会実行副委員長
(2001年建築学修士課程終了)

学・三浦学長からは「こんなに面白い企画とは思っておりませんでした。お招き頂き、ありがとうございます!」と、自ら仮装に身を包み、笑顔の挨拶をしていただきました。

そして校友会・長嶋会長の音頭により乾杯、パーティーが始まりました。

吹奏楽部の華やかなジャズの演奏とともに、司会者の軽快なトークにより進行。アトリウムの中央には巨大なカボチャのキャラクターが描かれたスクリーンが飾られ、会場全体には薄い紫色の布の膜が張られた屋台が賑やかに配列。出入り口の反対側には「ネオ屋台」と呼ばれるかわいらしいデザインの屋台車が並び、アジア風料理の匂いを漂わせていました。



ヨーロッパ調パフォーマンス

出入り口では、「仮装グッズ」が無料で配布され、訪れた卒業生や現役学生は何の準備もしてい

なくても気軽に入場できるよう工夫されていました。受付で渡されたバンソウコウを顔に貼れば飲食は無料！各自がお好みで選んだ仮装グッズに身をまとい、懐かしい友人、お世話になった先生方、初めて会う学生諸君との交流が図られました。仮装を楽しみながら、あちらこちらで笑い声が生まれ、徐々に会場は賑やかになっていきました。

今回のイベントのために、全国の校友会支部の皆様からは、地酒が送られてきました。前回の交流会の時にも好評だった、この「地酒コーナー」。今回も、大好評でした。

開場後、しばらくしてから「研究室対抗」の仮装パフォーマンスが始まりました。

建築系学科の学生は、この時期は課題や卒業設計等があり、非常に忙しくもあるのですが、短期間のうちに準備を行いました。そして、みごとに教員と一緒に演劇やダンス・組体操・寸劇など、それぞれ研究室ごとにアイデアを盛り込んだ面白いパフォーマンスを披露してくれました！



大好評の仮装グッズコーナー

パフォーマンスの審査は、拍手の音量を騒音計を使い計測し順位をきめるという面白い試みでした。

普段の授業などでは、なかなか見られない先生方の仮装パフォーマンスに、卒業生も学生諸君も大笑い！このようなイベントがなければ、普段はなかなか研究室同士の交流も図りづらいため、参加した学生からは「ぜひ、来年もやってほしい！」との声が多数あがりました。

また、来場した卒業生の中からは、「ベストドレッサー賞」として、個性的な仮装を披露していただいた方にステージに上がっていただきました。当日来場した卒業生の方も楽しめる内容でした。

様々な趣向を凝らしたイベントでしたが、あっという間に2時間が過ぎ、入場総勢317名のパーティは大盛況のうちに幕を閉じることができました。

そして、参加された多くの在校生の皆さんも、きっと心の中に残る、楽しい思い出として印象づけられたと思います。企画の段階からお手つだいしてくれた方々、お疲れさまでした。そしてご苦労さまでした。この企画が建築系学科の枠を超えて、工学院大学の楽しいイベントのひとつとしてこれからも成長していくことを願っています。

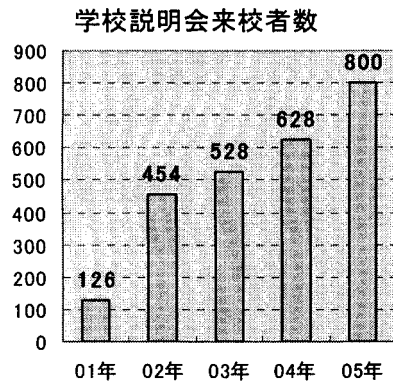
<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/wwd1025/>



すばらしいパフォーマンスが続々と！

中学校

<入学希望生徒が今年も増加>
 中学校の応募状況について、ここ数年の流れを紹介します。はじめに次のグラフをご覧ください。



説明会は年に6回行います。定員80人の学校なので、今年は延べ10倍の受験生が来校したことになります。

<なぜ増加しているのか?>

その理由は、文科省の“新”学習指導要領（02年実施）によって公立中への不安感があられたことと、大学の「理科教室」が多摩地区・相模原地区等にこの10年間インパクトを与えてきたことが、背景にあります。また、「うちの会社に工学院大学出身者がいて、非常に好感を持てる人だから。」という親も少なくありません。そのような土台の上に、01年「大学スタンダードの新校舎」、02年「男女共学」03年「シラバス」05年「高校新校舎着手」他、常に学校改革を提示したことが良かったです。また、『東洋経済』の“本当に強い大学特集”も心強い追い風でした。

<入試レポート、過去4年間>

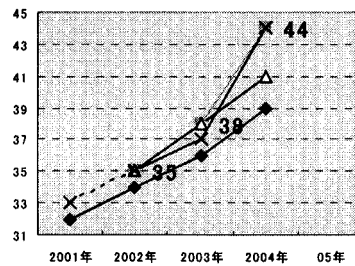
説明会参加者数に比例して受験生数が増加し、また入学者の学力も上昇しています。それを「結果偏差値」で以下に示しますが、中学入試について詳しくない方がほとんどだと思いますので基本的なことをまず記します。

・本校の中学入試は全部で4回です。（2月1日午前入試、1日午後

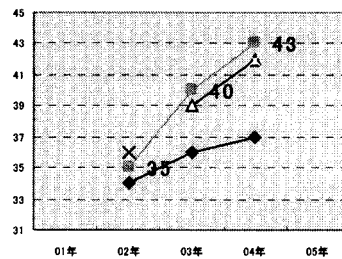
入試、2日入試、7日入試です。）
 ・入試日によって「結果偏差値」が異なります。
 ・受験生のほとんどが“三大模試”のいずれかを受けますが、母集団が異なるため数値には差が見られます。

● 1日午前 ○ 1日午後 ▲ 2日 × 7日

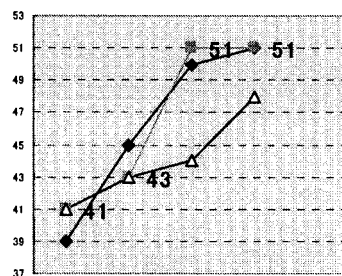
四谷大塚 男子



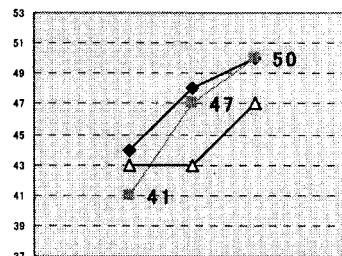
四谷大塚 女子



首都圏模試 男子

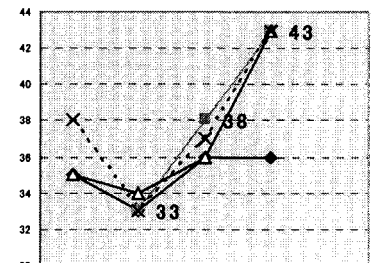


首都圏模試 女子

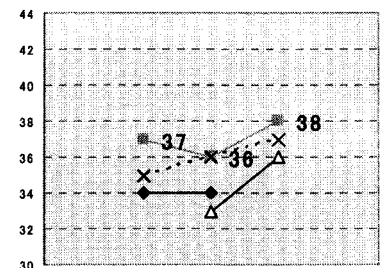


・なお、グラフ中の数字は1日午後入試のものです。

日能研 男子



日能研 女子



模試によって数値には随分差がありますが、年々上昇している点はほぼ共通です。今年の結果がどのように評価されるかはまだ分かりませんが、入試を終えた感触では、さらに右肩上がりであろうと確信しています。

<校友の方々へのお願い>

この人気を支えているものは、いつも書かせていただいているように、学校法人工学院大学の底力と皆様方による社会への貢献であると思っています。

今後は交友の方々との関係を一歩進めて“先輩方の職場訪問”や“企業を興し維持していくこと”についての聞き取り等、工学院ならではのイベントを中学生にさせられたらとも考えています。はじめは小さな一歩かもしれませんが、その時にはぜひよろしくお願いたします。

なお、皆様の回りに小学生がいたら、本校を紹介していただけるとありがたいです。（笑）

高等学校

「共学一期生の女子卒業生に聞きました。」竹花有也 教頭

はやいものです。本年3月、共学一期生が卒業しました。高校卒業の女子生徒が、校友の一員となりました。そこで、今年卒業した共学一期生の女子生徒に、次のことを聞きました。
(なお、学年・組・番号は在籍時のものです。)

1. 本高校を志望した理由 2. 高校生活について 3. 進路先 4. 進路先の志望理由



3年3組5番 金田麻理さん

1. 設備の良さやまじめな校風などに惹かれました。
2. 共学一期生ということもあって、1年生の頃は多少のとまどいや緊張もありましたが、先生方の配慮で特に不自由することはありませんでした。学校行事などとても楽しく、あっという間の3年間でした。
3. 東京女子大学 現代文化学部 地域文化学部
4. 高校の授業で一番興味を持ったのが、世界史や地理でした。この方面について更に学びたいと志望しました。大学では東南アジアを中心に研究していくことが希望です。



3年4組13番 横峰 綾さん

1. パソコンが自由に使える、一期生として様々なことに取り組めると思い志望しました。
2. 私は3年間、吹奏楽部に所属していました。入学式や卒業式、野球の応援やコンクール、そして定期演奏会など様々な舞台に立つことができ、たくさんの思い出深い経験ができました。部活をはじめとても充実した生活を送ることができた3年間でした。
3. 白梅学園大学 子ども学部 子ども学科
4. 幼い頃から保育士になることが夢でした。今年度から4年生大学が設置されたが短大の伝統である「現場に強い保育者の育成」という特徴に魅力を感じ志望しました。



3年6組20番 川島千明さん

1. 中学校時代から理数系が得意だったので、中学の先生に進められ志望しました。
2. 女子一期生として今までなかった女子のクラブを立ちあげたり、3年次には体育祭のダンスで、踊りから体系移動まで自分たちで考えることができました。このように先生方の配慮もあり、充実した生活を送ることができました。
3. 工学院大学 都市デザイン学科
4. 以前から建築やデザインに興味がありました。特に「インテリアデザイン」には強い興味と関心があり、都市デザイン学科の4年次で学ぶことができるので志望しました。



3年7組10番 大野真希さん

1. 中学時代は建築に興味があり、工学院大学の建築学科をめざし志望しました。
2. 共学一期生ということでクラスには女子が8人しかいなくて、とまどいもありましたが、文化祭や体育祭なども男子生徒もいっしょになってクラスみんなで良いものにすることができ、楽しい生活を送ることができました。
3. 東京経済大学 経営学部 経営学科
4. 父親の仕事の関係から、会計士に興味を持ちました。東京経済大学は、資格取得のサポートがしっかりしている上、アットホームな雰囲気がとても良かったので志望しました。



3年7組34番 峰尾奈津子さん

1. 共学一期生であること、他校にない科目があり興味を感じたことと家から近いので志望しました。
2. 部活動はしませんでした。結構楽しい生活を送ることができました。修学旅行の行き先が変わったり、校舎の建て替えなど、共学一期も含めなかなか体験することができない生活でした。後から笑い話になるような高校生活だったと思っています。
3. 大妻女子大学 家政学部 食物学科
4. 幼い頃からアレルギー体質だったので、栄養学に興味を持ち学びたいと思っていました。設備や雰囲気なども考え、志望しました。



3年9組40番 山崎景子さん

1. 小さい頃から“ものを作る”ことが好きだったので、父親の母校である理系学科が充実している大学の附属だったので志望しました。
2. 二度のホームステイ経験を通じて異文化にふれ、コミュニケーションの大切さを知りました。他の高校にはないCADや環境について学ぶ授業があったことが良かった。
3. 工学院大学 国際基礎工学科
4. 国際基礎工学科の充実した英会話カリキュラムなら、世界のニーズに応えられる人材、すなわち「グローバルエンジニア」を目指すことができると思い志望しました。

平成15年春の叙勲



建築科（昭和30年3月第125回卒業）

刈田一二三

このたび平成十五年春の叙勲に際しはからずも地方自治功勞として勳四等瑞宝章の榮に浴し身に余る光榮であり有難く心から感謝をいたしております。

これもひとえに皆様をはじめ多くの方々の長い間変わらない心暖まるご指導ご支援の賜物であり改めて心から厚くお礼申し上げる次第でございます。

お蔭様で五月七日、石原東京都知事より勳記・勳章の伝達を受け、翌八日夫婦共々皇居に参内し、天皇陛下に拝謁し、榮譽と暖かいお言葉を賜り感謝の極みでございました。

私は昭和五十年四月地域の皆様より力強いご推挙を賜り狛江市議会議員に初当選以来連続六期二十四年市政の発展と市民生活の向上につとめてまいりました。当時はまだ下水道は完備しておらず道路も舗装されていないところも多かったです。また踏切における交通渋滞の解消市街地を一本化し更に測道整備高架下利用により地域の発展と生活環境及び利便性の向上、小田急線の連続立体化事業に併せて街づくりを推進するため都市施設生活関連施設等の市街地再開発事業を行うなど市民要望に全力投球をしてまいりました。

これからも地域の皆様と共に明るい町づくりに努力してまいりたいと思います。

変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。お礼のご挨拶にさせていただきます。

主な経歴

本籍 東京都狛江市中和泉3丁目653番地
現住所 東京都狛江市中和泉3丁目18番9号
出生地 岩手県和賀郡沢内村大字太田第19地割53
 前 狛江市議会議員
 刈田一二三
 昭8年4月15日生

学歴等

昭和30年3月31日 工学院大学専修学校建築科卒業

公職歴

自 昭和50年5月1日 狛江市議会議員1期
 至 昭和54年4月30日
 自 昭和54年5月1日 狛江市議会議員2期
 至 昭和58年4月30日
 自 昭和58年5月1日 狛江市議会議員3期
 至 昭和62年4月30日
 自 昭和62年5月1日 狛江市議会議員4期
 至 平成3年4月30日
 自 平成3年5月1日 狛江市議会議員5期
 至 平成7年4月30日
 自 平成7年5月1日 狛江市議会議員6期
 至 平成11年4月30日



専門学校

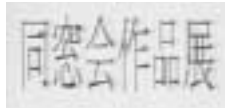
平成16年度学園祭製図・作品展(淀夢祭)協賛OB展

OB展実行委員 渡辺征三

同窓会員の会社紹介、製品紹介に写真、絵画が多く出展されました。また昨年に引き続き腰越水上町町長からの観光パンフレットや、更に校友会の俳句、写真サークルのプロ並の作品が華を添えて戴きました。

展示当日は、観覧者が少なかったのですが、写真撮影の仕方、絵画や俳句の作り方について、出展者同士がディスカッションし、楽しいサロンとなりました。

次回も是非、多くの方の出品及び御観覧をお願い致します。



第57回 製図・作品展後援会、同窓会OB展参加作品リスト(2004年度)

書上 正	風景写真20点
梶野和己	自社ビルー写真2葉
海老沢桑次	職人のかあちゃん随筆
酒井史生	思い出写真館-写真2点
渡辺征三	水彩風景2点
腰越孝夫(水上町町長)	水上温泉郷ポスター、案内カタログ
佐久間惣喜	建物内観外観写真4点
工学院大学校友会 東京支部写真サークル部	写真サークルコンクール作品17点
佐藤敏勝	がす資料館・巾着田の彼岸花(埼玉日高市)写真5点
小野伸雄	静物水彩1点
阿部 洵	風景写真8題
小倉将宏	水彩コスチューム静物4点
山本 清	魚拓(額付)2点ーカンパチ・沖メジナ
中島孝明	鉛筆デッサン3点
工学院大学校友会 東京支部俳好会	俳句ー短冊、掛け軸、色紙25点
大越政志	建築金物製品カタログ紹介(昭光通商 K.K.)

校友会事務局からのお知らせ

維持協力会費納入のお願い

在学中に納入いただいている終身会費だけでは校友会の運営が難しくなっている状況にあります。社団法人格を有している工学院大学校友会としては、学園に対して今まで以上に援助して行く必要があります。同封の振込用紙により皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

スマトラ沖地震・新潟県中越地震に対する見舞金ありがとうございました！

本年1月9日（土）開催された新年懇親会において呼びかけを行なった結果、スマトラ沖地震に57,241円、また、新潟県中越地震に22,747円が寄せられ、それぞれ朝日新聞社と日本赤十字社にお届けいたしました。ご寄付をいただきました方々に誌面を借りて厚くお礼を申し上げます。なお、朝日新聞社に届けた分については、1月25日（火）朝刊に新宿区・工学院大学校友会新年懇親会出席者有志からということで掲載されました。

寄付の受贈について

本年2月18日に大橋秀雄理事長から10万円の寄付をいただきました。大橋理事長のご厚意に深謝すると共に厚く御礼申し上げます。

E-mailアドレスをお持ちの方は是非共ご協力を！

平成14年3月から会員に対し、E-mailによる発信態勢の構築に取り掛かっております。将来はE-mailによる情報発信を活発化することを計画中でありますので、E-mailアドレスをお持ちの方は、同封の総会出席返信はがきには是非共ご記入の上、投函下さいます様お願いいたします。

工学院大学校友会 STEC VISA カードのご案内

工学院大学校友会 STEC VISA カードは、

- 1 (社)工学院大学校友会会員・在学生ならびに教職員の方と家族だけがご持ちいただけるエンブレムカードです。(工学院大学校友会と三井住友カード(株)が提携発行する公認カード)
- 2 会員の方がこのカードをお使いになると、その利用金額に応じた提携手数料が還元金としてカード会社より校友会に入金され、学園援助費、学生・生徒活動の援助費の一部に充当されます。なお、カード使用に当たっては通常のクレジットカードと同じ手数料以外は、一切負担になることはありませんので、申し込みご希望の方は、同封の総会委任状ハガキの連絡欄に 印をつけてご返送下さい。

上記の件でのお問い合わせは、校友会事務局 TEL 03 3342 2064

FAX 03 3342 2035

E mail kkoyukai@mx5.mesh.ne.jpまでお願いいたします。

平成17年度 支部総会開催予定(2005年3月末日現在)

開催月日	支部名	開催場所	開催月日	支部名	開催場所
4月23日	山口県支部	ホテルザ・グラマシー	7月2日	西湘支部	みなとみらい
5月上旬	清水建設支部		7月8日	東芝支部	工学院大学新宿校舎
5月13日	鹿児島県支部	パレスイン鹿児島	7月23日	大阪支部	東洋ホテル
5月15日	栃木県支部	ホテルニューイタヤ	9月10日	北海道支部	未定
6月4日	西東京支部	八王子クリエイトホテル	10月1日	兵庫県支部	未定
6月4日	体育会連合OB会支部	工学院大学新宿校舎	10月16日	東京支部	工学院大学新宿校舎
6月5日	広島支部	ますみ	10月21日	青森県支部	弘前文化センター
6月5日	埼玉県中央支部	産学交流プラザ	10月21日	岩手県支部	全国大会会場
6月17日	山梨県支部	シティホール紫玉苑	10月21日	福島県支部	全国大会会場
6月25日	長崎県支部	長崎市内割烹「川正」	10月21日	山形県支部	全国大会会場
6月25日	高知県支部	「荒磯」	10月	新潟県支部	
6月26日	千葉県支部	工学院大学新宿校舎	11月10日	日本電気支部	NEC芝倶楽部
7月2日	川崎支部	みなとみらい	11月18日	沖縄県支部	エッカホテル
7月2日	横浜支部	みなとみらい	11月23日	長野県支部	上田市内
7月2日	相模支部	みなとみらい	11月26日	京滋支部	きよみず
7月2日	湘南支部	みなとみらい	未定	静岡県支部	

法人役員のおすすめ

今年度は、学校法人の役員の変更期にあたり、校友会から推薦の各役員について下記の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。（敬称略）

次期校友法人評議員（H17.4.1～H20.3.31）

会長および会長推薦	長嶋 秀世	白井 精滋	
機械工学同窓会	杉山 助一	渡辺征一郎	前田 道德
応化会	片岡 国牟	若栗 徳男	西山 徹
電気電子情報同窓会	来住 康弘	鷹野 一朗	軍司 俊彦
建築系学科同窓会	田野辺幸裕	笹原 克	高木 雅行
附属高等学校同窓会	五十嵐 功	若林 勝司	池崎 誠
専門学校同窓会	山本 清	書上 正	小山晃一郎

法人理事（H17.4.1～H20.3.31）

渡辺征一郎（S40年 大学機械卒） 笹原 克（S50年大院建築科卒）

法人評議員会副議長・副議長職務代理（H17.4.1～H20.3.31）

副議長 片岡 国牟（S39年大学化工卒）

副議長職務代理 山本 清（S30年専修学校機械卒）

校友会評議員および理事の変更

建築系学科同窓会役員の変更

	（変更前）	（変更後）
評議員	鯨坂 誠之	笹原 克
理事	小林 将夫	笹原 克

定款施行細則の追加

1. 校友会政策諮問委員委嘱について

理由：校友会の改革、発展ならびに学園に対し行うべき支援策について会長の諮問に応え得る機能を持つ機関を設置する。

追加する条文

第13条として以下を追加挿入する。（第13条以下を順送りに読み替える）

（政策諮問委員の委嘱）

第13条この法人に会長が必要と認めるとき、政策諮問委員を委嘱することができる。

2. 政策諮問委員は理事会に諮って会長が任命する。

3. 政策諮問委員の任期は、会長の任期期間中とする。

4. 政策諮問委員は、会長の諮問に応じ、各種の会議に出席して意見を述べる事が出来る。

5. 政策諮問委員は、校友会会員であり、校友会の活動全般にわたって大所高所から意見を述べる事ができ、かつ、校友会会員ならびに学園関係者からも信頼される人物であること。

2. 臨時理事会の開催について

理由：現在、定款第24条に理事会の開催について「理事会は、毎年4回会長が招集する」となっているが、年4回以上の開催に対応するためのものである。

追加する条文

第7条として以下を追加挿入する。（第7条以下を順送りに読み替える）

（臨時理事会の開催）

第7条 会長が必要と判断した場合、定款による理事会の他、必要に応じて臨時理事会を開催することができる。

社団法人工学院大学校友会

「第60回評議員会 & 第49回総会」開催のお知らせ

会長 長嶋秀世

日時 平成17年5月29日(日) / 12:30 ~

場所 工学院大学新宿校舎 高層棟 3階 0312号教室

- 議案 第1号議案 平成16年度事業報告承認の件
 第2号議案 平成16年度収支決算報告ならびに財産目録承認の件 監査報告
 第3号議案 平成17年度事業計画(案)承認の件
 第4号議案 平成17年度収支予算(案)承認の件
 第5号議案 定款施行細則の追加承認の件
 第6号議案 校友会役員一部変更の件

- (* 1)本誌同封のハガキにより、折り返し出欠についてご回答下さい。ハガキに50円切手をお貼り下さい。
 (* 2)定款施行細則第13条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意思表示と見なして出席に加えることができることになっておりますのでこの点、予めご了承下さい。
 (* 3)総会・評議員会で発言を予定されている方は、事前に事務局までFax(03-3342-2035)にてご意見をお寄せ下さい。

[総会当日のプログラム]

評議員会・総会

受付 12:00より

開会 12:30

議事 13:00より

講演会・表彰式

学園近況報告 14:40より

優秀学生・生徒表彰状贈呈 14:55より

記念講演

講演者 工学博士西村吉雄

(元東京大学大学院工学系研究科教授)

演題 大学改革と産学協同

なお、講演会終了後中層棟7階食堂にて16:45より懇親会を開催いたします。



学生・生徒の表彰報告(平成16年度総会において)

[大学院]

専攻	氏名
機械工学専攻2年	丹代 忠芳
化学応用学専攻2年	増田 康人
電気・電子工学専攻2年	上田 一敬
情報学専攻1年	高橋 輝壮
建築学専攻2年	高木 文隆

[大学]

学科	氏名
第一部 機械工学科2年	長井 篤
第一部 機械システム工学科2年	高橋 文彦
第一部 国際基礎工学科2年	村松 玉緒
第二部 機械システムデザイン学科2年	長谷川 亮
第一部 応用化学科2年	石垣 明美
第一部 マテリアル科学科2年	石川 淳
第二部 化学応用デザイン学科2年	松井 壽昭
第一部 電気工学科3年	瀬戸 玲子
第一部 電子工学科4年	菅 智茂
第一部 情報工学科2年	正木 圭
第一部 建築学科建築学コース2年	小菅 芙沙子
第一部 建築都市デザイン学科2年	久保田 彩夏
第二部 建築学科2年	木島 真理子

[専門学校]

学科	氏名
第一部 電気技術科2年	上井 克浩
第一部 ネットワーク・エンジニア科2年	白鳥 豊
第一部 建築科2年	小林 達央
第二部 メカニカル3D・CAD科2年	石坂 純一
第二部 ネットワーク・エンジニア科2年	辻浦 俊治
第二部 電気技術科2年	實藤 和真

[附属高校]

学科	氏名
3年	岡 孝昭
2年	座間 智
2年	房野 亮介

[附属中学校]

学科	氏名
3年	白木 裕介
2年	島田 奈々

平成16年度 貸借対照表(平成17年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1 流動資産	6,910,338	1 流動負債	86,934,193
2 固定資産	250,172,760	2 固定負債	6,185,600
		3 正味財産 (うち基本金)	163,963,305 (20,000,000)
合計	257,083,098	合計	257,083,098

平成16年度 財産目録(平成17年3月31日現在)

(単位:円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産	6,910,338	負債	
1 現金預貯金	6,910,338	1 一般預り金	155,193
固定資産	250,172,760	2 在学生会費預り金	86,779,000
1 基本財産引当預金	20,000,000	3 退職給与引当金	6,185,600
2 什器備品	784,360	正味財産	163,963,305
3 電話加入権	102,800	(うち基本金)	(20,000,000)
4 長期預金	229,285,600		
合計	25,7083,098	合計	25,7083,098

訃 報

次の方々がご逝去されました。ご生前のご活躍を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。

名誉教授	中嶋 泰氏(平成16年4月22日)
元専門学校教員	中西昌太郎氏(平成16年5月3日)
相談役	小野塚政雄氏(平成16年7月14日)
法人総務部	下嶋 正道氏(平成16年10月7日)
名誉顧問	今井 功氏(平成16年10月24日)
情報工学科主任教授	塚本 克治氏(平成16年11月1日)
前秋田県支部長	諸澤 忠雄氏(平成16年11月3日)
電気工学科教授	中根 央氏(平成16年12月16日)
島根県支部副支部長	小村 優氏(平成17年2月22日)

平成16年度事業報告

平成16年度において下記の通りの事業活動を行いました。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設に関する助成 (定款第5条第1項)	1 学園援助費寄付
学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1 学生・生徒の研修援助 優秀学生の表彰 学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1 校友会報125号の発行(64,000部) 2 会員名簿の更新・CD ROM名簿の販売 (次年度以降のCD ROM名簿の作成は中止した)
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1 学術講演会開催(総会時、新年懇親会時) 2 各支部単位での見学会の適宜開催 3 総合研究所主催の学術講演会への協賛
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1 新年祝賀会・懇親会の開催 2 総会後の懇親会の開催 3 各支部の支援および支部組織の活性化 4 各種同好会活動の支援 5 各支部総会・懇親会の開催(41支部 813名) 6 第4回ホームカミングデー開催への協力
学校の行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1 就職の支援 2 大学後援会・専門学校後援会との懇談会開催

平成17年度事業計画(案)

平成17年度において下記の通りの事業活動を行います。

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設に関する助成 (定款第5条第1項)	1 学園援助費寄付
学校に在学する学生・生徒の学習活動および就職活動ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1 学生・生徒の研修援助 優秀学生の表彰 学生の研修活動に対する援助・支援
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1 校友会報126号の発行 2 会員名簿の更新・住所ラベルの発行
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1 学術講演会開催(総会時、新年懇親会時) 2 各支部単位での見学会の適宜開催 3 総合研究所主催の学術講演会への協賛
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1 新年祝賀会・懇親会の開催 2 総会後の懇親会の開催 3 各支部の支援および支部組織の活性化 4 各種同好会活動の支援 5 各支部総会・懇親会の開催 6 学園支援プロジェクトチームの発足 7 第5回ホームカミングデー開催への協力 8 学園が行なう社会活動への援助・支援
学校が行う就職の斡旋および紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1 就職の支援 2 後援会との懇談会開催

平成16年度 収支計算書

平成16年4月1日～平成17年3月31日

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
1 収入の部			
基本財産運用収入	10,000	120,000	110,000
基本財産利息収	10,000	120,000	110,000
会費収入	38,657,000	37,409,000	1,248,000
会費収入	38,657,000	37,409,000	1,248,000
協力会費収入	4,000,000	2,545,500	1,454,500
協力会費収入	4,000,000	2,545,500	1,454,500
寄付金収入	200,000	260,000	60,000
寄付金収入	200,000	260,000	60,000
雑収入	450,000	531,459	81,459
受取利息・配当	150,000	183,255	33,255
雑収入	300,000	348,204	48,204
当期収入合計(A)	43,317,000	40,865,959	2,451,041
前期繰越収支差額	3,884,000	3,884,745	745
収入合計(B)	47,201,000	44,750,704	2,450,296
2 支出の部			
事業費	28,060,000	25,394,684	2,665,316
学園援助費	2,500,000	2,461,560	38,440
学生生徒活動援助費	2,500,000	2,500,000	0
学生生徒奨励金	1,400,000	1,415,000	15,000
会報印刷費	3,500,000	3,500,000	0
発送作業費	460,000	462,704	2,704
郵送費	5,400,000	5,380,408	19,592
取材費	300,000	295,235	4,765
印刷費	2,750,000	1,491,624	1,258,376
協力会費割戻金	800,000	736,850	63,150
支部出張費	2,000,000	1,651,871	348,129
支部総会費	350,000	234,000	116,000
支部関係雑費	200,000	27,980	172,020
給与手当	3,100,000	2,857,610	242,390
福利厚生費	150,000	31,132	118,868
全国大会費	1,500,000	1,500,000	0
全国大会経費	600,000	477,382	122,618
校友ネットワーク構築費	500,000	353,652	146,348
消耗雑費	50,000	17,676	32,324
管理費	15,630,000	13,259,637	2,370,363
総会費	1,600,000	1,194,612	405,388
本部会議費	1,600,000	1,730,289	130,289
その他会議費	3,700,000	2,192,709	1,507,291
給与手当	5,200,000	5,136,517	63,483
福利厚生費	650,000	588,023	61,977
旅費・交通費	150,000	22,930	127,070
通信費	950,000	936,908	13,092
振替手数料	100,000	65,575	34,425
事務用品費	600,000	594,688	5,312
消耗品費	40,000	2,100	37,900
印刷製本費	80,000	55,825	24,175
修繕費	60,000	50,000	10,000
賃借費	250,000	244,230	5,770
対外費	50,000	0	50,000
慶弔費	300,000	206,750	93,250
公租公課	100,000	53,295	46,705
雑費	200,000	185,186	14,814
固定資産支出	270,000	231,800	38,200
資産取得支出	270,000	231,800	38,200
予備費	1,000,000		1,000,000
当期支出合計(C)	44,960,000	38,886,121	6,073,879
当期収支差額 A)-(C)	1,643,000	1,979,838	3,622,838
次期繰越収支差額 B)-(C)	2,241,000	5,864,583	3,623,583

平成17年度 収支予算書(案)

平成17年4月1日～平成18年3月31日

(単位:千円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
1 収入の部			
基本財産利息収入	60	10	50
会費収入(6単体)	35,684	38,583	2,899
協力会費収入	4,000	4,000	0
寄付金収入	200	300	100
雑収入	450	450	0
当期収入合計	40,394	43,343	2,949
前期繰越収支差額	5,864	4,911	953
収入合計	46,258	48,254	1,996
2 支出の部			
事業費	25,415	28,060	2,645
学園援助費	2,500	2,500	0
学生・生徒活動援助費	2,500	2,500	0
学生・生徒奨励金	1,400	1,400	0
会報・出版費	8,100	9,660	1,560
会報印刷費・取材費	3,800	3,800	0
発送作業費	460	460	0
郵送費	3,840	5,400	1,560
印刷費	1,550	2,750	1,200
支部関係費	3,195	3,350	155
維持会費還付金	800	800	0
支部出張費	1,845	2,000	155
支部総会費	250	350	100
支部関係雑費	300	200	100
人件費	4,120	3,250	870
給与手当	3,970	3,100	870
福利厚生費	150	150	0
特別事業費	1,700	2,100	400
全国大会費	1,500	1,500	0
全国大会経費	200	600	400
校友ネットワーク構築費	300	500	200
消耗雑費	50	50	0
管理費	14,678	15,630	952
総会費	1,500	1,600	100
本部会議費	1,350	1,600	250
その他の会議費	3,298	3,700	402
人件費	5,850	5,850	0
給与手当	5,200	5,200	0
福利厚生費	650	650	0
旅費・交通費	100	150	50
通信費	950	950	0
振替手数料	100	100	0
事務用品費	600	600	0
消耗品費	40	40	0
印刷製本費	80	80	0
修繕費	60	60	0
賃借費	250	250	0
対外費	20	50	30
慶弔費	300	300	0
公租公課	30	100	70
雑費	150	200	50
資産取得支出	220	270	50
資産取得支出	220	270	50
予備費	1,000	1,000	0
当期支出合計	41,313	44,960	3,647
当期収支差額	919	1,617	698
次期繰越収支差額	4,945		

(印は前年度より減を示す)

社団法人工学院大学校友会

「第15回全国大会(青森)開催」のお知らせ

弘前にリンゴをもぎに来てけへ!

校友会会長 長嶋秀世 / 大会実行委員長 工藤知彦

全国の校友のみなさん、2005年10月には青森(弘前)でお会いしましょう!

東北で開催される本州・北の始まりの地青森で、約400年の歳月を刻んで栄えてきた古城のある街弘前市は、リンゴと米どころの津軽の経済的中心都市でもあります。西にそびえる「岩木山」は富士にも似て美しく、東に八甲田連峰を望み、水清らかな「岩木川」が南北をつらぬき、十三湖に流れていきます。この流域が日本一の「リンゴ」とおいしい「米」を豊かに実らせてくれる津軽平野で、この地の人たちのきめこまやかな情緒と、青森の豊かな自然を満喫していただきたく、ご家族おそろいでお越し下さるようお待ちしております。

大会実施要項

開催日	2005年(平成17年)10月21日(金)	受付	14:00 ~ 15:30
大会式典会場	弘前文化センター	大会式典	16:00 ~ 17:30
祝賀パーティ会場	ホテルニューキャッスル	祝賀パーティー	18:00 ~ 20:00
参加費	10,000円(ご家族は7,000円)		

共催イベント・観光コースのご案内

① 10月22日：弘前城と市内観光(参加費無料)

(ゴルフ大会は中止し、プレーご希望の方には会場に近いゴルフ場をご紹介します)

② 観光コース

八戸駅起点 10月20日：A 八戸蕪島と十和田湖コース、会場

盛岡駅起点 10月20日：B 八幡平・十和田湖・八甲田コース、会場

会場ホテル起点 10月22日：C 三内丸山・十和田湖・青森空港(八戸駅)

弘前駅起点 10月22日：D 最果ての地 下北半島コース

会場ホテル起点 10月22日：E ミニ白神散策コース

上記A～Eまでのオプションツアーは有料です。またA～Eの順位は旅行業社(JTB社)

の資料によるもので、詳細は別紙をご参照下さい。

弘前駅からは・・・

JR弘前駅西口を出て正面方向のバス停7番線に乗り、文化センター前で下車します。料金は140円でここからホテルニューキャッスルまで歩いて5分です。

参加申込みは・・・

参加ご希望の方は下記の問い合わせ先まで、住所・氏名・電話番号を明記の上、FAXにてご連絡頂けましたら、参加費振込用紙や格安パックご案内などの詳細な資料を送付いたします。

青森大会参加申込み締め切り日：平成17年7月15日(金)

申込み後の取消し

勝手ながら申込み後参加を取りやめられた場合は、振込まれた参加費は大会の祝い金(寄付)とさせていただきますので予めご了承下さい。

格安パック申込み締め切り日：平成17年6月30日(木)必着

問い合わせ先 & 青森大会事務局

工学院大学校友会青森大会事務局

〒036-8141 弘前市松原東1-14-19

外川 譲二

Tel & Fax : 0172-36-4034

校友の皆さまへの附属高等学校建替え資金ご寄付のお願い(校友会)

理事長募金の挨拶

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
 本学園は、明治20年に時の帝国大学初代総長渡辺洪基の発意により、我が国最初の中堅技術者養成の機関として東京築地に創設された工手学校に始まります。

工手学校は昭和に移ってから工学院と名を変え、工学院工業専門学校を併設し学園の規模を拡大していくことになりましたが、昭和3年に築地から東京市淀橋町(西新宿)に校舎を移した後、昭和19年に工学院大学附属高等学校の前身である、工学院工業学校を開校し、以来、工学院第一工業学校・第二工業学校、工学院高等学校等の変遷を経て、平成4年に現在の「工学院大学附属高等学校」に至っております。また、昭和42年には西新宿から八王子市中野町に校舎を移転し、以来、移転にあたって新築した本館は当時のまま現在まで使用をしております。

しかしながら、さすがに老朽化は否めなく、このたび本館、別館1号棟を取り壊し新校舎を建設することといたしました。また、プールにつきましても併せて建て替えることといたしました。

新校舎は鉄筋コンクリート4階建て、1階から4階まで吹き抜けのアトリウムを配することでキャンパス全体の視覚的なつながりを図り、生徒同士あるいは生徒と教師とのコミュニケーションが密になるよう計画しております。また、屋上には天体観測ドームを設置し、理科への関心を高め、学習意欲の向上を図り、さらには創造性、知的好奇心や探究心を育むことを目指しております。

現在、私学の財政は主として学費のほか、補助金、あるいは各方面からの寄付金によって賄われていることは、皆様のご承知のとおりであります。補助金の大幅な増額もまた、学園及び関係諸団体の強い要請にもかかわらず政府及び自治体の財政事情により抑制の方向にあります。このため、各学校とも各種の寄付金に依存せざるを得ないのが実情でございます。

本学園におきましても、施設の整備・充実につきまして、種々検討し努力してまいりました。しかし、内部努力だけでは手が廻り兼ねる実情でございます。

つきましては、甚だ恐縮に存じますが、日頃より本学の充実と将来への発展に意を注いで下さっておられる皆様方へ、ご理解とご協力を仰ぐ次第でございます。

今日の困難な経済状況につきましては十分に承知しておりますが、格別のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、この募金は任意でございます。趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りたく重ねてお願い申し上げます。 敬 具

学校法人工学院大学
 理事長 大橋 秀雄

学校法人工学院大学 高等学校学園振興資金要項

募金対象 在校生の父母・保証人、卒業生、教職員、企業、団体、篤志家

使途目的 施設・設備の充実と改善

募金目標額 1億円

募金額

個人 1口2万円 企業及び団体 1口3万円(口数・金額とも全く任意でございます。また期間中、何回かに分納されても結構です。分納される場合は、払込通知票下部の通信欄にその旨ご記入ください。)

払込宛先

学校法人工学院大学 学園振興資金係

払込期間

平成17年2月1日より平成18年3月31日まで

払込方法

同封の払込用紙によって、最寄りの郵便局にお払込願います。

郵便振替 新宿郵便局 口座番号 00100-2-196416

お問い合わせ

学校法人工学院大学総務部 学園振興資金係 電話 03-3340-0324

所得の寄付金控除について

個人が「特定公益増進法人(学校法人工学院大学)」に寄付をした場合、確定申告をすることにより寄付金控除が受けられます。

確定申告の手続き

「確定申告書」用紙を最寄りの税務署から取り寄せて確定申告をしてください。

「確定申告書」に添付するのは

1. 払込金受領書.....ご寄付金払込時に郵便局から渡されます。
2. 特定公益増進法人であることの証明書の写し.....ご寄付金入金確認後、お送りします。

寄付金控除額

寄付金の額(但し、寄付金の総額が年間所得の25/100が限度) - 1万円 = 寄付金控除額

企業の方へ

本寄付金は、法人税法上に規定する特定公益増進法人である学校法人工学院大学に対する寄付として、一般寄付金の損金算入限度額と別枠で同額までを損金に算入することができます

損金算入限度

(資本金 × 2.5/1,000 + 当該事業年度の所得 × 2.5/100) × 1/2 = 損金算入限度額

* ご賛同いただきました皆様のご芳名は、銘板に刻み新校舎に設置させていただきます。

以上



編集後記

3月中旬過ぎ、関東はもう直ぐ春爛漫桜狩りの短い時を迎えようとしておりますが、この会報が、皆さまのお手元に届くのは5月初め頃になりましょう。

さて、本会報は新任された広報部の後記する8名により10回の広報部会を開催して編集されたものであります。無論、部外の校友の方々にも大変ご尽力頂きました。厚く御礼申し上げます。

本年度は、本部役員の改選年に当たり人事が一新され、特に広報部については、1名を除く7名の部員が新任されました。そのため第1回広報部会は、会報の継続性を保つ意味からも前期広報部員からの引継ぎ内容について伺うことから始められました。その上で、第2回広報部会は、部員が共通認識で活動するにはどうあるべきか、また、会報のあり方はどうかについての話し合いから始めました。

前者については、校友会報は主に学園関係者および6同窓会（機械、化学、電気、建築、高校、専門の各系同窓会）の会員に拝読頂く会誌であることを配慮したものであること、後者については、(1) 予算の範囲内で作成し、計画的な紙面構成を考えて実施し、出来るだけ無制限な原稿の受け取りは行わないこと、(2) 過去10年間の調査結果からページ数は16の倍数の32ページが妥当であり、これに表紙、裏表紙（その表を含む）の4ページを加えて36ページ構成にすることを目標にするこ

と、(3) 会報として毎年度記載のページ数の確定を行い、残りのページの構成は特定の同窓会に偏らないようバランスの取れた誌面にすること、(4) 執筆者は、校友、法人、教職員、学生を対象にすることを基本とし、1記事は、最大見開き2ページとして、特別な場合を除き特定執筆者に多数ページを割くことは、公平感を失う恐れがあるため避けること、(5) 原稿は全てメールやフロッピーなどの電子媒体で収集すること、例えば、執筆者がパソコンを扱えない場合であっても利用者の手助けを借りて電子媒体で提出頂くこと、などについての同一見解を得られました。以上は、今後の会報作成上のご参考にと書き留めておきました。

なお、以上のことを踏まえて、台割り（頁の割振り）を作成し、当然のことながら頁内容を検討し、各頁にはその責任者を置いて活動いただきました中で、これからもそうだと思いますが、最も大変だったのが表紙の内容とデザインであったことを書き添えます。

広報部長始め理事の皆さま方には、熱心に活動頂き、本当にご苦労様でした。心よりお礼申し上げます。

また、会員の皆さまには、より良い会報を目指したく、今後ともご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます、編集後記とさせていただきます。

（片岡国牟：校友会広報担当副会長）

広報部

広報担当副会長：片岡国牟（応化会）
（左から3番目）

広報部部長：浅山行博（電気電子情報同窓会）
（左から4番目）

広報部理事：田村久義（機械同窓会）
（左から6番目）

広報部理事：小山内敏（応化会）
（右上写真）

広報部理事：名取勝敏（電気電子情報同窓会）
（左から7番目）

広報部理事：加藤隆弘（建築同窓会）
（左から2番目）

広報部理事：岡安 彰（高等学校同窓会）
（左から1番目）

広報部理事：佐藤敏勝（専門学校同窓会）
（左から5番目）



Tokyo Urban Tech

工学院大学・校友会報 / vol.126

発行 2005年4月20日

発行所 社団法人工学院大学校友会

〒163 8677

東京都新宿郵便局私書箱第13号

東京都新宿区西新宿1 24 2

☎ 03 3342 2064

☎ 03 3340 1649

☎ 03 3342 2035

E-mail: kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp

<http://www.kogakuin.or.jp>

制作 社団法人工学院大学校友会・広報部

印刷所 明和印刷株式会社


〒113 0023

東京都文京区向丘1 5 2

水上ビル2階

☎ 03 3817 0581

☎ 03 5684 7155



ホームページアドレスが変わります

<http://www.kogakuin.or.jp>

(旧アドレス <http://www.mesh.ne.jp/kkoyukai/>)